学級文集

丘の子

4号（卒業記念号）

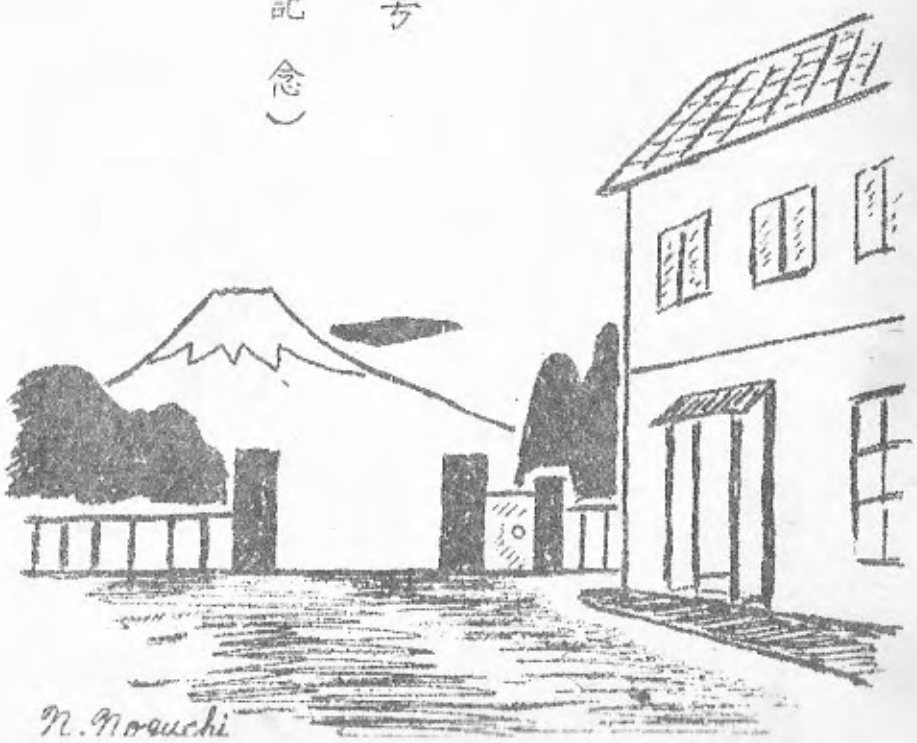
杉並区立西田小学校六年二組

学級文集

丘の子

四号

（卒業記念）



＝もくじ＝

表紙絵・弟たち……武内逢子
とびら・学び舎……野口並人

先生方から……
卒業する皆さんへ　学校長　川野千代松
卒業おめでとう　神山敏夫
二組の卒業生に寄せて　藤森功三

想い出〜卒業の感想……

日記より……
三輪圭子　遠藤和子　柏木志津子
国定洋子　藤井房子
山田隆久　水原孝子

・詩・
君たちへ……大島信夫
季節の言葉……鈴木明子
トムの散歩……花輪幸吉
つばめ……武田信次
たんぽぽ……鹿渕則子

僕の希望〜私の希望……

私たちの作品
私達の学校……山内祥子
ぼくらの学校……森谷東平
六年になって……富永文雄
校長室のそうじ……野口並人
遠足……池田義子
遠足……戸根木尚子
月……多田国之
節分……黒田実
雪の朝……市谷洋子
雪の夜……西沢宣昭

お家の方々から……
藤井美智子　坂本一夫
椿原千枝子　落合久
遠藤幸子　武内けい子
山内節雄　村田栄子
黒田志げ乃
田辺すき

別れのことば……

あとがき……

丘の子

[illegible]

卒業する皆さんへ

川野　千代松

早春の校庭では運動服姿もかい水いしくはち切れるような元気でドッチボールとサッカーの試合が行われている。卒業式を間近かにしての送別体育会である。もう暖かで学校を去られる大年生の皆さんには学校生活の一日一日、一つ一つが思出として強く心にさざみこまれて行く事でしょう。大年の年月は長くもあり又短く感じられる事もあるでしょうしその間には楽しい事嬉しい事、時にはつらい事　悲しかった事もあったと思いますが　やがて大きくなった時にそのどれも〳〵が自分を磨き向上させるのに役立っている事を感じると思います。嬉しい時には心がはずみ　つらい時にはふるい立ってがんばる。雨の日も風の日もよく通い続けたものですね。

私も遥一時間という少しの時間でしたが皆さんと共に一つ教室で勉強しお話しをする事の出来たのはほんとうに楽しく嬉しい時でした。思う事の半分も出来なかったのは残念であり申し訳ないと思っていますが　たった一つでも皆さんの心のすみに残っていつか思い出してくれる事があったらそれで満足です。一生の中には学校で習った事　きいたお話　本で読んだ事の幾つかが強く生活の中に生きています。良い習慣や行いはその中のどれかの影化によって形づくられ人格にまで高められて行きます。私はこの記念文集を通じて　正しい人になる事　かけがえなたなくまじめに働く人になる事　そして理想は高く強く強い実行力を持つ人になる事をお願いしたいと思います。これからも長く続く学校生活や社会生活の中では幾度か深い谷間にころげ落ちるような悲しい事や苦難でしょうが勇気を出して進んで下さい。

思出の西田の丘にはもうすぐ花咲く春がおとずれます。皆さんのかっやかしい門出を祝福する希望の春です。いつも健康で母校を忘れずに立派な学生、そして社会人になる事をお祈りします。

卒業おめでとう

神山　敏夫

先生が中野の学校から西田へ来た年に、初めて受持だったいたずらっ子の三年生が、もう卒業かと思うと、何とも云えない気持です。前の学校で五年や六年を教えてはかりいたので、へ年ぶりに三年生を受け持ってだいぶまごつかせられたものです。君達も、きっと、むずかしいこと云う先生、おっかない先生に受け持たれて、少からずまごつかせられたことと思います。先生は早く皆と仲よしになりたかった。しかしそれといっしょに、やんちゃ坊主どもへ失礼を、早く、きまり正しく考え深く行動する子供にしたかったのです。君達と大いにふざけるときはふざけ、又大いにきびしく、しかるべきときにしかった理由です。かみやま先生の「やまとか「なり」になったのもやむをえなかったと思います。

君達とは三年生の一年間だけで、翌年、学校のつごうで先生は五年生のほうを受け持つことになり、君達と、わかれなければならなくなってしまったのですが、同じ学校にいることであり、君達はいつも、先生と顔を合わせると「先生、先生」と話しかけてくれて、大変うれしく思っていました。いよいよ君達も卒業ですが、君達の生活には時々友省と、新しい気持が出来かかっていたと思います。一日、一日かそうありたいし、月や年のかわるごとに、君達もそういう気持ちになった時があると思います。今君達は卒業、そして中学入学という機会にめくりあっているのです。大いに心を新しくこの機会を利用してもらいたい。将来、良い人間、立派な人間になりたいという希望を持つことも大切なことですが、それには、現在、良い小学生であり中学生であること が大切ではないでしょうか。必ずしも勉強が出来ることだけが立派ではない。先生のいう良い中学生とは何かを考えて君達がその良い中学生になることを心からお祈りします。

一組の卒業生に寄せて

藤森　功三

あなた達が四年生になった時、始めて先生と顔を合わせて共に学ぶ事になりました。あの頃を思い出すと楽しかった事が次々に浮んで参ります。

率一に浅沼校長先生が突然おなくなりになられた悲しみ、今もって忘れられません。次に相撲部へ行った時誰かボートから落ちて水びたしになったり、雨放された集団生活、思う存分すもうをとって先生にせられたり、遊園バスで楽しく組内の見学をしたり、考えれば数多くの思い出がつい昨日の様に思えてなりません。時の流れは実に早いもの、こうしている中にもう卒

嬉だという日もやってきます。穏かの時間も他まないで後初の五分間までしっかり自分のやる事をやって小学生生活に悔のないようにして中学に進みましょう。

新しい中学校の生活を迎えるに当って夫々希望にもえていることでしょう。望みは高く持って行く事は結構、その中に努力の二字を忘れずに。たゆまず雄々しく進んで下さい。そこにあなた達の立派に成人した姿を見たいものです。それ迄元気に頑張っていくことを心より祈っています。

私たちの作品

私達の学校

山内祥子

私達の学校は、東京にありますが、東京の中の杉並区という中の一番はずれにある、西田町というところにあります。このへんはサラリーマンの家も多いのですが、また、農業を営んでいる家も少しはあります。その証拠には、川や田んぼなどが多く、夜になって一人で歩くとちょっとおばけが出そうな気がします。父の話を聞いてみると、父母達がここにこしてきたころは、田んぼに「さぎ」がいて、夜、田んぼのそばを通ると、がさがさ、と、いって、「さぎ」が飛び立ったそうです。けれど、今は、もう、一ぴきもいなくなっています。さて、私達の学校は、生徒約一一〇〇人余り、先生方は三十一人です。そして、一年生は五組、二年生も一年生と同じく五組、三年生は四組、四年生は三組、五年生は四組、六年生は三組、合計二十四学級もあります。教室は一二三四五六年の各教室に音楽室、会議室、図書室、放送室もあります。私達の学校の校舎の色は、クリーム色、赤茶色です。クリーム色の方は、つい最近、戦後の校舎（赤茶色）をこわして建てなおしたものです。今のところ、旧校舎のおもかげを残しているのは、赤茶色の校舎だけで、そこも、衛生室を入れてたった四教室だけです。しかしその後に木で造られた赤茶色の二階建ての校舎もあります。赤茶色（旧校舎）の校舎は、平屋建てで、木造建築でクリーム色の校舎は二階建てです。私達の校庭は旧校庭と、新校庭に別れています。へつに、わける必要もありませんが、新校庭は、男子用の運動場、旧校庭は、一、二年の男子や、女子達の遊動場と、しせんにわかれてさています。また、遊び用具は、鉄ぼうジャングルジム、すべり台などが設けられています。私達の学級では毎週一回、木曜日に、クラス会を開いて、学校をよくするために、いろいろ、みんなで、話し合っています。このクラス会では、よく仲間はずれをする人達がいる。人かせっかく野球をしていたのに上級生の人は、後からきたのに場所を横取りしてしま

う、というようなこと水できますか、私はたれもが仲間はずれにされずに、みんなが楽しく遊べたらな、と思います。また、クラス会などにはあまり出ない、校庭の草取りやごみ取りを上級生だけでも　みんなで力を合わせて、きれいな学校にしたいと思います。また、西田の小学校の生徒は、「自分さえよければいい」という考え方を持っていると　先生方はおっしゃいます。また、物のとりあつかい水非常にらんぼうだそうです。学校にあるいろいろな物は、学校全生徒共同で使うものですから、こわさないように　きれいに取りあつかってもらいたい　と考えてこれを学校全生徒によびかけたら、とも思います。

ぼくらの学校

森谷　東平

北校舎の一番右の校舎を見ていると、ぼく達水初めて西田の学校に入ったころが思い出される。あのころは二階の校舎は一つもなく、みな木造の平屋だった。時には青空教室といって、庭のつくえでやったこともあった。あれから五年、今はみんな二階建の校舎と変り、運動場も浅沼校長先生が広くしてくださった。その広い運動場には、すべり台、ジャングルジムやはんとう棒も出来た　平屋ばかりだった時には　初めて出来た二階建の校舎かとてもめずらしく　もうれしくて　ぼく達はいつもその校舎を見上げていたものだった。この校舎が出来た時に歌った歌も　いつまでもわすれられない。たが校舎だけよくなっても生徒が悪くてはなんにもならない。ぼく達は校舎と同じように　りっぱになろうと思っている。今ぼく達は北校舎の二階の教室で勉強しているが　西田の丘に建てられた、ぼくらの学校は自然にめぐまれ、季節の移り変る美しさは　ぼく達の心もきれいにしてくれる。初夏のこのごろ学校をとりまく畑は黄金に波打っていた麦がかりとられ　みごとに大きくなったキャベツか　めだっている。すぐそばの森の中には中道寺の　わらぶき屋根が見える。遠くには新らしく建設された住宅水かたまって見える。このごろは　鉄さんコンクリートのアパートも出来てきた。学校の近くの道路も　ほそうされた。西門のそばにあるプールは　やがてぼく達の、楽しい海ひ場になる日水近い。

六年になって

富永　文雄

新学期の朝は晴れていた。ぼくらはいよいよ六年になった。そして六年になったのだから、下級生のお手本にならなくてはいけないと思った。だけどもまだ、卒業した人たちがいるような気がしてならなかった。六年生の教室は、去年と同じように北校舎であった。それから先生の発表になった。ぼくはすこしいやなきもちがした水　やっぱり大島先生でした。みんなはへんな顔をしていたが　ぼくはどっちでもよかった。そしてその日はおわった。そして二日目勉強とうぐをいれて新しいかばんで行った。みんなが「おー　富永、新しいかばんじゃといってひやかしたので　なんたかいやなきもちがした水　たまって行った。それから勉強をしてかえってきた。家にかえってきても　「文雄はもう六年になったんだからしっかりやれよ」と　いわれたので、ぼくもしっかりやろうと決心した。

校長室のそうじ

野口　並人

六年になって、そうじをやる場所水変った。ぼくたちは校長室ときまった。校長室にそうじをやりに行くと、校長先生は　もうほうきを持ってはいっていらっしゃった。ぼく達は　からふきをしていた。しばらくすると大島先生水はいってきて、そうじを手つだってくださった。そうじ水終ってから　校長先生水「みんないすにすわりなさい」とおっしゃった。ぼく達水すわると　「きみから名前をいいなさい」と　おっしゃった。はじめに吉川君からめいめい名前をいうと　校長先生は何回もくりかえして、いっしょうけんめいに名前を覚えようとしていた。それ水終ったのでほっとして教室に帰ると　大島先生水「校長先生にほうきをもたせなさんな」と　おっしゃった。ぼくは　「校長先生はだいじな体なのだから　二度と校長先生にはうきをもたせないようにしようと思った。校長室のそうじは　なんたかかたっくるしいような気持水した。ぼたさ　ちりとり、ほうきが足りないので　そろっているとされいに出来ると思った。今日は防人用のバケツを使ってそうじをした。ちりとりは　しばく興味が

ちりとりを、かりてきた。そうじ中　校長先生は、ガ
早くそうじ道具かぞろうといいないと　一人ごとをお
っしゃっていた。ぼくは、そうじをいっしょうけん命
やって、校長先生にしかられないようにしたいと思っ
ている。

遠足

池田　義子

朝、ママの話声をあける音で目をさましました。用意はみんなできていて、あとは駅へいっておすしやさんからおべんとうをうけとるだけになっていました。ママは駅までおくってきて下さいました。電車にのって神田へむかい、それから上野へいき長瀞につきました。長瀞の駅は秩父とちかいこじんまりとしたきれいな駅でした。それから休けい所へむかいましたが、駅から休けい所へは　十分とはかかりませんでした。道々木の葉の紅葉しているのか　きれいでした。中でも「大もみじ」というのは大変きれいでした。休けい所につきました。「西田小学校休けい所」とかいた紙を見た時、西田が一番いいように思えて、私はちょっと得意でした。徳森先生から　「おべんとうを食べてもよろしい」とさいた時、私はうれしくてたまりませんでした。急いで市谷さんと一しょにかわらへ行きました。場所をきめこれさかして、水の近くで食べました。食べおわってから石をさがしました。うすきさみたいにすしかついた石、砂かかたまって地がうみたいになった石、色々な石がありました。だいたい二十個くらいとってリュックに入れました。それから「おみやげ」を買いました。私は初めに長瀞の写真を買いました。それは三十円でした。それから七十円のこけしを買いました。けれどあとで思いなおして二十円たして九十円のひょう本ととりかえてもらいました。朝二十円ずつにためたのを入れてもらったので十、二十円ちょうかしたけれど　いい物がかえてうれしかったです。外の遠足は　ほんとうによく晴れていてよかったと思います。らい年もこのように晴れてもらいたいと思っています。

遠足

戸根木　尚子

さようは長瀞へ遠足に　いくのだ。駅は　たくさん人が　ふえるにつれて　話声もよけいにさわがしくなった。私は　おすすめしようかなと　りゅうの中にしまった。電車の電車にのった。はいると　ギュウギュウで　身動きも出きないほどだ。いつもなら　こんな満員電車にのった時は、いやな顔をするのだが、きょうは、みんな　にこにこと　楽しそうに話している。私達も話した。電車の中が、きゅうに明るくなったようだ。神田でのりかえて、上野までいった。上野も　東京駅にまけないで、りっぱだ。自然科学電車にのって、上長瀞までいくのだ。貸切なので　わけなくすわれた。今　ここから遠足が　始められようとしている。あそぶ物がないので、何をしてあそぼうかと、考えたが、たくさんあった。始めは、どこでも話でもちきりだった。「ガタン」といった。汽車が動くのだ。走りだした。みんなが　「わー」といった。私達は、まどの所で　お百しようさんに　手をふった。田畑をこえ山をこえて、この列車も　長瀞につくのだ。もうすぐ長瀞　つくという時に、まどの所で　歌を歌った。流行歌も歌った。せん声は、みんな底にのってどこへいくのだろう。長瀞についた。ここから　北石をひろいにいくのだが、さきにへんとうを食べた。荒川の水が　いきおいよく流れている。外で　食べるおべんとうも　格別においしい。ここで化石をひろった。まるい石　しかくい石　いろいろな石が　ころがっていた

月

多田国之

ぼくは頭がいたかったので、二階にねていた。はじめは、本を読んでいたが、「頭がいたいのに本を読んではいけない」と、注意されたので、ねようとしたがなかなかねつかれない。そのうちに、外はだんだん暗くなったようだった。頭を上げて、西の方を見ると、夕やけが、赤く空をそめていた。僕は、さぞきれいだろうなあと思った。いつもならば、鳥にえさをやってお使いに行くのに、今日は、だれがしてくれただろうなあと思って心配になった。下からは、雨戸をしめる音や、話す声が、うるさくきこえるほど静かであり、ただ物音というのは、かぜをひいてねているお兄さんの、いびきだけがきこえるだけである。また本を読みたしたが、一頁半ぐらい読むと、字が、だんだん見えなくなってきた。むりをして読んでいると目がいたくなってきたので、その頁を折って、あたりをみると、本も、服も、机も、暗く、月の光に白く光っていた。「ザザー、ザザザ」、とっせん風が、強くなって木の葉が鳴った。いままで、白くうすぼんやり見えていた月が、太陽が沈んだので、むこうの松山の大きな木の上に、いびつな顔をあらわしたからだって、ふわっと黄色の月が、太陽が沈んだので、こんどは、自分が、下だといばっているようでもあり、やさしいようにも感じられた。むこうの松の木も家も、電線もみんな白く光ってみえた。その間に、家々の灯が、点々と赤く光っていた。なんともいえない美しさだ。くっきり浮なれている影色もこうして、静かに見つめるとまもかわって見えるのかと、ふしぎにさえ思えた。ぼくは、うっとりとした。こんな世界に、いつまでもいたいと思った。「ザザー、ザザザ」、ぼくは、ふっとわれにかえった。月を、しっとながめた。月はいそんさっきよりも上になっていた。じっとながめていると、なんだか、ぼくに話しかけているようだ。そしてほんとうに月にうさぎか、もちをついているようにさえ思われた。月のそばには星が、一つ光っていた。やはして、その星が、いかにも月の子供のように思えた。そのそばを、あかりをつけた飛行機が飛んでいった。やがて、その音もきこえなくなった。ぼくは、なんだか、さびしい気持になった。そうしてぼくはしみじみと思った。「月は、この夜をぼくたちが、寝ないですごせるように、見まもっていてくれる、やさしい、この晩が、いつまでも続くように、」と。

節分

黒田実

朝、起きてみると、もうとだなの中に豆が買っておいてあった。それで、ぼくが、「お母さん、今日うちで豆をまくのは、だれ」と聞くと、「やっぱり去年と同じにおにいちゃんがまくのでしょう」とおっしゃった。

ぼくは、今まで自分でまだ豆をまいたことがない。去年もおとともに窓をあけたり、戸をあけたりするだけで、その後を兄さんが豆をまいたのだった。だから今年の節分は、前から自分で豆をまきたいと思っていた。お母さんの返事で今度もお兄ちゃんがやるのかと思って がっかりした。

夜になると、近所の家から豆まきをしている声が聞えてきた。それでぼくがお母さんに、「また家では豆をまかないの」と聞くと、「お兄ちゃんがお使いに行っているから、帰ってきたらまきましょう」と、おっしゃったので、中学の兄さんと家の中ですもうをとって待っていた。中学の兄さんが、「なかなか帰ってこないから、やっちゃおうか」といったが、ぼくはしかられると困るのでとめた。

しかし、ぼくは豆がまきたくてたまらないので、兄さんが台所に行ったすきにそっとえんかわの戸を明けて豆をまいた。「おにはー外、ふくはーうち」と大きな声をはりあげてまきはじめたら、兄さんがびっくりしてとんできて、「みのるはかりまいてするいぞ、おれにもまかせろ」といったので、二人でまいた。

全部まき終って から お母さんの所にいって、「もう豆をまいちゃったよ」というと、「あら、もうまいちゃったの」、それでお兄ちゃん帰ってきたの。お母さんねてたのでちっとも知らなかったわ」とおっしゃった。お母さんはこたつにねていたらしい。

間もなくお兄ちゃんも帰ってきた。お兄ちゃんはその事については何ともいわなかった。それからみんなで自分の年だけ豆をとって食べた。ぼくは十五も取ってしまった。お兄ちゃんは、「年の数をとらなくてもどうせ食べるんだから、たくさん取った方がとくだ」といって三十粒位取ってしまった。

雪の朝

市谷　洋子

いつものようにねぼうして、ふとんの中でゴソゴソしていると、お母さんが三じようの方から私のねている部屋に入って来た。そして、「洋子、早く起きなさい。雪がふっているわよ」と雨戸をあけながらおっしゃった。私は、「雪」と聞いただけで　胸がわくわくした。それで「今すぐ降っている雪を見ようか、それともめんどくさいから後で見ようか」などと考えながら、足をはたばたしていた。

「洋子」と又おっしゃって、お母さんがふとんをめくってしまった。私はしかたなく　ねまきのままでげんかんの所へとんで来た。

戸をあけると　ひんやりした空気が私の体にあたりぞくぞくした。目をこすりながら外を見ると、あたり一面まっ白だ。いつもしもの中から顔を出していた野菜や草も、今日は厚いわたのために息におしこめられて、緑の葉を出すこともできない。雪を見た時しんぞうがドキドキして何か何だかわからない気持だった。

私はすぐ洋服にきがえてごはんを食べた。いつもの日曜日の朝ごはんを食べる時より、おはしがはずんで早くやめられた。はしをおくなり私は　雨くつをはいて外へとび出した。まだだれもふんではいない雪をサクッ　サクッと深い足あとを作って歩きまわった。私はもったいないような顔つた雪の上に　ここえるまで絵を書いた。一つは女の子、もう一つは雪だるまを書いて二つを見おろし　何とも言えない楽しい気持になった。

空を見ると、雪など降らなかったように晴れわたり青さをしていた。袋をふり回くと、茶色のきたない足あとが　いくつもいくつもようのように　きれいにくっきりとおされていた。

雪の夜

西沢　豊昭

夕はんがすんだ。大雨ごろだったかもしれない。母が、「こんな雪の晩　てつやで　水にぬれるかもしれないなんて」と　心配そうにいった。ぼくは、今父がどんな所で　仕事をやっているのか　想像してみた。ぼくだけではない。兄も、弟も　母も　そうだったかもしれない。ぼくは　また楽しみもあった。今外で雪がふっているのだ。あした　雪の中であそぶのだと思うと　体全体がうずうずしてくる。さっき見た時はまばらのわさにあった。ふさな梅木が　白い　クリスマスツリーのように思われ、かなりもった雪を見ると、思いが、はずんできた。「もう一度見てみよう」と弟にいうと　「うん」といって　こたつから出た。まどをあけると、さっさよりも　すっとつもっていて、さっき見た梅木は　いまにも　つぶれるようであった。

「外に出て見たいな」と　弟にいうと　大きな頭をたてにふり、「お母ちゃん　外に遊びにいってもいいだろう」ときき　「こんな夜に外に出るなんて」と、母がいい終らぬうちに、「中根君たって、さっき外にいったんだもの」と　母にねだっていた。すると　外から、「おういい雪ちゃん」という声かしたので　弟も母はとめたけれども　ぼくは　それか　なにをいっているか、うわのそらで　心は　もう雪のつもる、横谷さんの　かきの木　かきね、屋根に　雪がつもって　うしろ木　まっくらなので　まるで　絵を見ているようだった。とりわけ、柿の木は　きれいで自分の目をうたぐるようだった。中根君は、門の所に小さな雪だるまを作っていた。いや雪の熊だ。「よっちゃん、熊だろう。うまく出来たじゃないか」というと、中根君は　それに答えず　つめたそうに　手をポケットに　つっこんでいた。ぼくは　中根君の作りかけの熊を、もっと　かっこうよくしようと　雪の熊の上に入って　いるところをけづった。いつもなら　つめたい雪も　今はつめたくはなかった。

七月二十七日

三輪　圭子

一時から　プールがあるので、私は孫の人達と誘れて　学校へ行った。プールに行く前は　ふ年初めてみるので　朝からうれしくて　とてもはしゃいでいた。学校へ行く途中で　かみなりがゴロゴロなっているので　二年　三年のすのすは　のめいをあげたりして

いるうちに　学校についた　ひかえ室に入ると　かのなりがならなくなったので　ほっとした。先生は　「今ちょっと、にわか雨がふるから　もう少し教室で待ってなさい」と、おっしゃったので　私はいすにすわって、友達と話等をしていると　とつぜんざあざあとものすごい音がしたので　外を見ると　雨がふっていた。にわか雨か、二、三回もあって　もうやっとプールに入った時、体が　かたがたふるえる位寒かった。けれども、少し入っていると　自然にプールの水になれてきて　みんなで　競争をした。コースは、横を往復するのである。一等をとれたので　うれしかった。時々小雨がふるので　三十分位で「終り」と、先生がおっしゃったので　「つまらないなあ」と、心に何回も思った。私達が家に帰るころになって、お日様が　でて来て、あたたかくなったので、お日様が　にくらしかった。

八月七日

固定　洋子

今日　夜、おかあさんたちと阿佐ケ谷の七夕祭を見に行った。かざってあるものは　その店の名に関係した例が　いろいろ　ぶら下がっていた　トラ屋には　トラの大きいのがうるしてあった。意に雨がふってきた。すると　どのお店もされいなのは　店の中にしまった。そして、私の洋服のされ地をさがすのにとても苦労した。

三十年八月十二日

山田　隆　次

今日は　井ノ頭林間学校から帰ってさて昼食を食べてからお父さんと　お兄さんと　弟と　ぼくで　伊勢丹に徳川三百年展を見たいきました。都電で新宿でおりて　伊勢丹にはいりました。エスカレーターで　五階までいって　あとは　歩きました。歩いていると中弟が　わらっているので聞いてみたら、マネキン人形が天しまつにとときそうなのや　すごく小さいのがならべてありました。三百年展の入口からはいっていったら　初めにかごがあって　人形の大名行列の長いのがありました。まん中あたりに大きなかごがあり　大とのと書いてありました。やり　カ　かふと、まさしのなどを見ていくと　くしらをとる様子や　城や　門のもけいなどがありました。ふつうの人のくらしぶりも

ぶくろでお庭さん　三上さん、阪本さんとまい朝の立っている所までいっしょにいきました。涙がぽろぽろとみんなで手をつないでとぼりました。みんなでありそんていると、「ピーイ」と集まるあいずの笛がなったので、みんなで砂の所へ集まると、先生が　「しひさあみをやっているのを見にいこう」といったので、みんながかけだしました。私も斉藤さんといっしょに走っていきました。そして、じひさあみをやっているのを見ました。そしたら小さい五つぐらいの子供もやっているし　また私たちと　おなじぐらいの年の大年生ぐらいの人もやっているのでひっくりしてしまいました。　さかなかとれて五つぐらいの男の子が　まだいさてびく〜しているさかなをもっていました。でしてまたおしまいました。夜は花火をしました。

八月二十七日

水原　孝子

楽しかった行事もみんなすみ　ここすぐ第二学期が始まります。二学期はうんとがんばって、よい成績をとろうと思います。

私はだいたい勉強のあはすんだけれども　工作の船

けいにしてならべてあったり　そのほか、たくさんありました。エレベーターで　地階にいって、おかずとおやつをかって帰りました。

八月十六日

遠藤　和子

富津行きが近ずいてきた。母は、「いきなさい」、父は、「あぶないからやめなさい」といって、どっちにしようかまよってしまった。母は「みんな　たのしい思いをしているのに　いけばよかったのに」といっていた。母がそんなにいうんなら、「いけばよかった」と思った。その時、目がさめて、「あらゆめをみていたのねー」といって、「ほっと」した。その話を母と父にはなすと、母も父も　「行きなさい」といったので、いくことにきめた。

八月二十日

藤井　房子

今日は勉強がすんで海にいきました。そして、うさ

に エナメルをぬったら手のあと水ついてしまって、とてもきたならしくなってしまったので、出さないことにしました。すると姉が、「すいかの種のくびかざりを作りなさいよ」といって教えてくれました。ますすいかの種をきれいに洗ってほし、それにビーズをつなげるという方法です。家にはビーズがないので買わなければなりません。家の弟は今ごろおし葉をやって、母にしかられていました。私もしかられると断るので一生けん命勉強をしました。

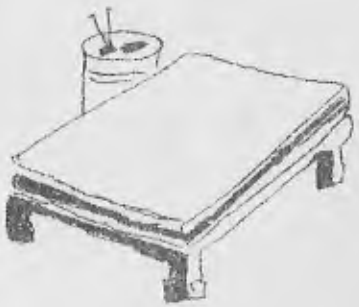
富津学園での第一日

柏木　志津子

青堀駅につきました次、バスは一台しかきていないので女子が先にのりました。男の子は乗れないのでおこっていました。でこぼこ道なのでものすごくゆれ、みんなきゃあきゃあさわぎました。富津町に入ると道水少しよくなりましたので楽になりました。やがて目的地につきバスはとまりました。そこの道はもう砂道です。畑の中に所々かぼちゃがおいてありました。私はこれでなにをするのかと不思議に思いました。少し行くと松林が見え、その間から学園も見えました。「もうついた」そう思うと元気がでてみんないっしょうけんめい歩きました。学園に入ると思ったよりせまい所で学校みたいです。中に入り洋服を着かえお米を出しました。お米を出すと荷物がたいふへりましたので軽くなりました。荷物をみんなまとめてごはんの用意をしてたべました。ごはんがとてもおいしく全部食べられましたか　お腹がいっぱいになりました。

昼食後　荷物のいれる場所をきめました。私はいれ場所が大きいのであまるほどでよかったです。整理も一通りすんだのでみんな集まり入園式をしました。この学園のおじさんは　ちょうこさんという名なので私は女の人の名前みたいだと思いました。おじさんの話の中には　ごせという言葉がいるので気をつけなさいという話もありました。入園式がすんでから水泳にいきました。海は丘へ登るとよく見えました。遠くにみえるのはたぶん三浦半島でしょう。富津の海は思ったより波が静かです。組ごとに人数を数え準備体操をして海に入りました。私はうき袋を持ってきたのでそれで波のりをしました。私が使っているとみんなよってきて乗るのでしずんでしまいました。おはれた時の練習だといってみんな足をつけないで、力をいれるので水をのんでしまいました。時々陸へ上って人数を数えました。私は休けいの時は貝がらをひろいま

井戸の水を汲むのでお風呂に入るのですが　井戸の水が少くなると小森水まわってきません。お風呂の水もとてもきたないのですぐでてしまいました。でもお風呂に入るといい気持です。お風呂からあがるとすぐ夕飯になりました。ごはんばかりの器に入っていました。いつもこんなに多く食べないので　食べられるかしらと思いました。それでもどうやら一ぱいたべられました。ごはんを食べて散歩にでました。松林を登っていくと海が少し下に見え遠く燈台の光が三つ位ついたり消えたり。夜の海に光ります。海風もだいぶ涼しく寒い位です。水原さんや福口さんは帰りたくてしようがなく、「帰りたい　帰りたい」といっていましたが、私はそんなに帰りたいと思いませんでした。散歩から帰ってきてふとんをしき、ねました。私は　水原さんの所でねるのでしたが　ふとんがなくて永田さんの所でねました。男の子が夜おそくまでしゃべっていたのでねむれませんでした。



詩

君たちへ

火島信夫

「きみたち、おめでとう」と
まず大声でお祝を言いたい。
長年の修業が実を結び、
ここに巣立ち行く日が来た。

想えば、六年の昔
ピカ〳〵光るぼうしをかぶり、
大きなランドセルをしょって、
東から西から、南から北から、
ぞく〳〵西田の丘に登ってきた。
どの子の顔も希望にあふれ、
日の光に映えていた。

長かった年月に　君らの頭手体
として心はみがかれ
今、君たち六十二人のひなどりは
丘から大空にはばたこうとしている。
三月の空はどこまでも青く
優雅し祝福するかのように
朝明けにくっきりそびえている。
この新しい　広々とした世界に巣立ち行く
君たちの輝くひとみを見つめると
過ぎし昔がしのばれる。

さくらの花咲く四月の新学期
二たびめぐる朝かえに
六十人が固く手を　り握んだっけ、
けれどこの喜びも束の間に、
華い次の生命を
むざんに悪魔はつみ取りぬ、

春の遠足、秋の運動会と
楽しい行事はなおも続き、
学芸会の猛練習に
寒い教室に明のたつのもうち忘れ、
夕もやこめるその中を
家路に急いで行ったっけ、
草木もしおれる炎天に
ノートをかかえ、見学に
国分手めざしていったっけ。

いよいよ巣立ちの時が来た。
君たち六年二組のなかまよ、
希望に向って、真直にとんでいけ、
決して横にまがるなよ。
一人も落伍することなく、
みんな手をつないで行くんだ。
一人一人の力は弱く小さい、
弱い者はみんなでかばい、
目的地まで行きつくんだ、
悲しい時、つらい時には、
丘を見上げるんだ、
丘の森は、青く放り、
いつもやさしく君たちを見守るだろう。

さあ、丘の子よとんで行け、
そして、がんばってくれ、
どこまでもどこまでも真直に、

季節の言葉

鈴木明子

五　月

青空にぽっかりういた白い雲、
春風のっておよぐのは
まごいにひごいのこいのぼり、
雲と話をしてるよに、
みんな仲よくおよいでる。

六　月

雨降る中にあじさいが、
しょんぼり頭をさげている、
早くやめよと　さけている、
そばでにこにこ笑うのは
お家をしょったかたつむり、

七　月

今日は七夕うれしいな、
仲よく作った　たんざくに
心をこめて書いた字を、
天へ　とどけて　お願すれば

空には　にこにこ星様。

トムの散歩

花輪　幸吉

口笛ふけばころころと
ボールのように　とんでくる。
小犬のトムよう　れしいか。
野原へ散歩かうれしいか。

丸いひとみに　ちらちらと
四月の空か　うつってる。
おいでトムトム　さあいこう。
どこかで　小鳥かないてるぞ。

行こうよかけて　あの野原
むぎのほなみの　光る道
トムトムさっと　野原には
きれいな花か　さいているぞ。

みどりの芝生に　ころころと
ボールのように　とびまわる。

小犬のトムよ　うれしいか。
ぼくと散歩か　うれしいか。

つばめ

武田　信次

今年もきたよつばめさん
けんさいつばいとんできた。
遠い南のお国から
海こえ山こえ川こえて一

日本のみなさんごきげんよう。
さくらの花かさくころに
ようやく日本につきました。

ピチクパチクないている。
赤んぼかこんで楽しそう。
この子を大きくそだてたら
また　また　南に帰ります。

日本のみなさんごきげんよう。
どうしおせわになりました。

さようなら　さようなら　つばめさん
春になったら　またおいで。

たんぽぽ

鯉渕　則子

庭のすみに
小さなうえきばちがおいてある。
そこに　一株のたんぽぽがさいている。
私はそれを　庭のまん中にもってきた。
じょろ水を　かけてやったら
花びらに水がおちた。
水玉に太陽があたり
まるで宝石のように光ってる。

思い出

一年生の頃

緒方　寿平

一年生の時の冬だった。毎朝寒くていやな日だった。ある日の朝起きてみるとあたり一面に雪が積っていた。はかったら三十センチ位あった。朝まだ雪がふっていたので、学校を休もうとした。が、雪がやんだので姉と一緒に学校へ来た。学校には十人位しか来ていなかった。あまり生徒が少かったので、伊藤先生（小林先生）と一緒に雪だるまを作った。後雪合戦をしたりした。僕のしている中ではその日ふった雪が、今までの最高に思う。その雪がふって遊んだことはたのしい思い出として残っている。

関口　洋一

今から六年前　学校に入学した当初、先生が出席をとる時に、ぼくの名をよんだ。その時ぼくの一つ前の人がへんじをしてしまった事がありました。実はその時ぼくはないていたので　ほっとしました。先生は大村先生という人でしたが　すこし病弱が多くてあまりやさしくありませんでした。またある時しけんをした事がありました。それは東西南北のしけんでした。その時ぼくたちの教室が西をむいていました。ぼくはまだ地図の上が北だという事をしらなかったので　地図の上で東の方を北にしてしまい、おかげで六ヶ年間を通じて　はじめて0点をとってしまいました。だが今になってみると　ばかばかしくおかしくてなりません。

武内　洋子

私は一年の五月西田に転校してきたので、前の学校の生徒は一人もおぼえていません。こっちにきた時　西田では、二部授業をしていました。七月のある日のこと、午後番かと思って　十時ごろプールを見に行ったら、友達に、「武内さんずる休み」と言われて、赤くなって、あわてて家に帰ってしまいました。次の日学校にいくのはいやだった が、むりやりにいかせられました。授業が終ってから、母が、先生の所へいってわけを話していたのをしったので、それから、へいきでまちがいなくいけるようになりました。ぼんとうにこのことを思い出すと、今の一年生はしあわせだと思います。

深山　康夫

ぼくが入学したのは、四月の雨がふっている時で、お母さんといっしょに学校にいった。ぼくたちは一組で、安田先生だった。ある時、チンドン屋が学校の前の道を通った時、勉強中でのことでみんなでていっちゃって　帰ってくると、「そんなに見たいな

卒業の感想

☆秋山　摩子
わくらを東立ってでしたすすめは先生の教えを守り良い人になります。

☆三輪　圭子
卒業するにあたって　先生、父母に感謝したい。

☆橋口　京子
私達がこうして無事に卒業出来るのはみんな先生のおかげです。先生ありがとう。

☆鎬方　孝平
西田と別れるのはいやだ。松美に行くのはうれしい。

☆三上　幸子
私達はさくらの花のように　[illegible]

学校ともお別れだ。仲よく　[illegible]　別れだ。

☆舟橋　明美
今から卒業式をするのかと思うとつまらないです。

☆増田　洋子
さらばさようしつ　こうていよう！　なら。

☆清沢　孝郎
ぼく達は小学校の生活が終って中学校の生活にはいるのだから一生けん命勉強する。

☆藤井　房子
私は卒業するのがうれしいようなかなしいような気持がします。

☆小川　明宏
卒業という字を見るとなんだか物足りないように感じる。もう一年くらいいた

お見せてやるべといって、そこらにあった新聞紙をせなかにしょってえんぴつでもたたいてまねをしてくれたことが、ぼくの印象に一番残っている。もうすぐ二年になる時、子ども会をした時もおもしろかった。

二年生の頃

中村　京

よくおぼえていないかたしか二年の時だったろう、安芸君という子がはいってきた。この子の祖父と友達なので知ったのだが安芸君にはおかあさんがいないそうだ。とてもいばっていてきかんぼうだ。いつかうちにっカバがいるよ」といってやったら、それをほんとうにしたからおもしろかった。一度安芸君とけんかをした事がある。事のおこりは　僕が漢字書取りをして一日に十何回字が書いて、それを見せていたら　安芸君達がやってきて、「字がうますぎらあ」おかあさんにやってもらったんだろう」と言う。その子分もっそうだ、そうだ」とあいづちをうつ。あまりしゃくにさわったから、なぐってしまい、それでけんかになった。しかし先生が来たので　すぐにやめてしまった。いつもいばっているのをおもいっきりなぐったので、気持がすうっとして、さっぱりした。今もその時のことをわすれられない。その後安芸君はひっこしてしまった。

多田国之

いろもなつかしい。

☆渋谷　稔
一年のころからおせわになった先生がたりがとうございます。特に二年間おせわになった大藤先生お元気で。

☆井口　勝憲
学校を後にしていくことはどでもつらいが中学は楽しい。

☆吉川　文孟
西田とわかれるのはつらいが中学校へ行くのはうれしい。

☆関納　登喜江
この学校ともおわかれですからつまらないと思う。

☆塩谷　高介
ぼくの人生は　今から始まるのだが第一のふるさとである西田小学校をいつまでもわすれないようにしようと思います。

ぼくは　二年生の春この学校にうつってきた。北海道にいる時は　東京とはどんな所だろう、どんなにすばらしい所だろうと思っていた。今その東京に来たのである。家につくと　松濤中学校の運動会の花火がきこえた。目につくものはみんなめずらしいものだ。よく日　お父さんにつれられて　いろいろな所を見てまわった時も　なんだか、うれしいような気がした。ぼくは、数日たってからお母さんにつれられて西田の学校にきた。ぼくを受け持ってくださる先生は　田中先生といって二年一組だ。先生がぼくの手を引いて、教室の前の方へつれていってくださった。みんなの目が　僕へあつまる。学芸会で　ぶたいに立っているようで、ぼくは　はずかしくてしようがなかった。たぶんぼくの顔は赤かったと思う。先生の話がやっとすんで、ぼくは　ほっとした。この時の気持は　いつまでもわすれないと思う。

野口　美人

ぼくはばじめて東京から北海道の函館にいった。函館と青森の間は大雪丸に乗った。始めて運搬船というものに乗ったので船内をはしりまわったりした。今考えてみるとばかなことだと思う。函館について　友達がいないのでくる時にもらったあめをあげてお友達をつくった。みんないい人でとてもうれしかった。みんな函館弁でしゃべっているので　はじめはよくわからなかった。だんだんなれて、しまいに自分も函館べんをしゃべるようになってしまいそうだ。きてから五日ぐらいたって弥生小学校の校長室にす。

☆市谷　洋子
小学校生活にお別れして中学校生活の中にとけこんで行くのだ。胸に希望をふくらませて。

☆阪本　千恵
早く中学へ行きたいと思っていたのも卒業になるとつまらないと思う。

☆高橋　美美子
給食はまずいので早く家からおべんとうをもっていきたい。

☆小針　次義
ぼくは卒業するのは　あまりおもしろくない。又悲しいと思うこともあります。

☆夏目　美智子
卒業するのは悲しいけれど　大きくなるのはうれしいです。

いった。はじめは、ほる学校と思っていたのか　大きちがいで四階の飯きんコンクリートでした。一階ごとに便所があって水道があって下を見おろさないと　何階かわからないほどです。教室は北海道でも一番きれいでいい学校で　石川たく木がはいった学校だとわかってびっくりしました。考えて見ればたのしかった学校だとつくずく思わずにはいられません。

三年生の頃

高橋　久美子

私は一二年の時は小林先生に　おそわっていたが　三年生になってかわった。それは新しく入ってこられた先生だ。それは神山先生といって　すごくわかい先生だった。私はだんだんと先生の話をきいているうちに、ものすごく気にいってしまった。先生が話しかけているのに　私はそれにはあまりこたえないてはにかみやだった。それは　ある日の午後のことであった。私はいまから思うとはずかしくってたまらない。先生に　たっこされたりした時は　はずかしくなってしまった。今では　いい思いでであったと思う。

給食当番の時

鹿沼　則子

私は三年生の時に　一番いやだった思い出があります。それは給食当番の時。先生の給食を職員室にとりにいった時でした。ある日私に、柏先生が「職員室に給食をとりにいってください」といいました。私はいやだったけれども職員室にいきました。職員室の前までくると　はいるのがよけいにいやになりました。でもしかたがないのではいっていきました。すると大村先生がすぐにくれました。そしてしずかにろう下をいくと教室の前で男の子がわあわあさわいでいました。私はミルクがあるので　こぼすといやになると思っていると　たちまちぶつかってミルクがこぼれてしまいました。私はなさそうになって教室にかえりました。すると先生が、「どうしたの」とききました。私はなんだかはずかしく思いました。私は今そのことを思いだすと　私はなんておくびょうな人間だろうと思いました。

猪原　浩　二

三年生になって、入戸野先生のうけもちになった。一月ばかりたって、とつぜん入戸野先生がほかの学校にうつるといったのでびっくりしてしまった。先生にいろいろわけを聞いたが　いかなければならないらしいのであきらめた。そして入戸野先生がいく時、いっしょにきた中山先生がいやで　あんな先生いやだなといったりした。だけどだんだんなれてくると先生もいやじゃなくなって来た。

齋藤　美美子

三年の時は、神山先生に　勉強をおそわりました。そして　いつも楽しく勉強しました。ある日のこと　私は熱ぽいので　いそいで帰って来て　熱をはかって見ると　八度三分ぐらいありました。そこでいそいでふとんをしいて、ねてしまいました。それからいく日しても　熱がさがらないので医者にもかかりました。それでもなかなかなおりませんでした。ある時は　勉強したくなって　おかあさんのいない間に　ふでばこと紙をもち出して来て字や絵を書いていると　おかあさんにみつかってすぐおこられてしまいました。そして　大迷惑ぐらいして　やっと学校にいけるようになりました。その時はうれしくてたまりませんでした。それから又　みんなや神山先生といっしょに　楽しく勉強して三年生を終りました。

☆森谷　東平
今になって六年間もっとしっかりやればよかった。卒業式よおそく来てくれ。

☆野口　並人
ぼくがおとうさんになっても大島先生は先生だ。

☆関口　洋一
ぼくは　卒業するのかどうもうそのような気がして、今は何が何だかわからない。

☆深山　康夫
楽んで勉強、楽しかった六年間ようさよならば。

☆武内　洋子
卒業が近づいた、みんなと別れはつらいが　進学するのはうれしいな。

☆戸根本　尚子
卒業するのだと思うと楽しかった思い出、悲しかった思い出などが浮くきさまれている。学校と別れるのだと思うと悲しい気もする。

☆壷鎖　和子
たのしくすごしてきた六年間、私はなんとなくこの学校からわかれたくない気持がする。

☆若林　邦彦
ぼくは卒業というとむねがどきどきして、いつまでも西田にいたいような気がする。

☆内藤　せつ子
早く学校を卒業したいようでありなから悲しくなって来た。

☆細刈　則子
もうこの学校ともお別れだ。私は中学校へ行くのはいやでたまらない。

四年生の頃

田辺　保博

ぼくは四年生の時は、藤森先生になった。うわさにきいていた、きついグウでだれかがへんなことをしたらぶつので、ぼくはいやだと思った。何日かたつと、ついにいたいげんこつがきた。そめいたさ。ぼくはいたかったのですこしなみだが出てきてしまった。そういう日が何日も続いて、ぼくはいやになってしまったけれど、しようがないからがまんをした。そういうさに一学期がおわってしまった。こんどは二学期がはじまった。何日かたつと藤森先生がいないときである。ぼくは学校だよりで、「校長先生にあやまってごいい」といわれたので、ぼくはなきそうになってしまった。すこしたつと、いやだから帰ってきてしまった。

村田　暁

僕は、体を悪くしたため、沼津の片浜学園にいった。学園からは富士山がよく見えました。始めて、学園に行ったころは耳について、ねむれませんでした。また嵐のあと、荒れている海を見ました。そして、勇ましい海を見て、海がとてもすきになりました。しかし家に帰ってからは、すきだった海も忘れかけています。また起きる時刻や寝る時刻などもベルによるので、規則正しい生活を送っていました。だからといって、時間にしばられていたかというとそうではありません。たとえば山に登ったりした時には、素手などにおくれてもかまいませんでした。勉強をするのにも、人数は少いし、静かであるし、昆虫採集や植物採集をするのにも、環境が多いし、絵を書くのにも、けしきがよかった。けれどもお父さんやお母さんともわかれていたので、つまらないと思いました。

☆高橋　孟雄

これで小学校もおわりたと思うとかなしいようなうそのように思う。

☆服部　修

ぼくはみんなとちかう学校に行くのでみんなと別れるのはおもしろくありません。

☆小野　憲彰

いろいろな思い出が今でものこっていて、わすれられない。

☆後藤　正雄

学校をおいていくことはかなしい。大島先生とおわかれだ。

☆大門　康子

さくらの散るころはもう　卒業するのだ。この学校全体の物と別れるのだ。

☆永田　照子

卒業式が近づいてきたので私は西田小

野口　和男

四年生になって西田小学校に転校してきた。はじめて　お母さんと西田の門をくぐって　校長先生に会って四年の三組にきまった。四年三組は山田先生だった。教室に入ると　があがあとてもうるさくて、さわがしい学校だなあと思った。はじめてなので学科もあまりわからなかったので、しけんなどの点をとったこともある。休み時間にめんこみたいのを教室の中でみんなやっていた。その時、ぼくは、あまりいい感じをうけなかった。

鄭　合　高　介

社会科の時間だった。ぼくは　三輪さんたちといっしょの班だった。調べることがあって　みんなでやっていたのだが　いつかみんなでふざけあっていた。そのうち山田先生がいまわらっていたものみんな面手をあげろ。といった。わらい声はピタリとやんだが、ぼくたちはしようがないので面手をあげた。しかし三輪さんたち女の人は、すっすうしくも平きで勉強を続けていた。そのにくらしかったこと。とうとうぼくたちは残った社会科の時間ちゅう面手をあげていた。そめいたかったこと。こないだ同じ社会科の時間にやはり立たせられたことがあった。その時女の子がてこないという男の子たちの文句を聞いた時ふと四年生の　あのころのことを思い出してしまった。

五年生の頃

竹中　幸子

私は、今は大島先生の組にいるが　四年は終り五年になり　組かえの時は隣水どきどきした。まず新しいたん任の先生が来られ、次は組が変わる。一組の藤森先生が　○○さんとまんとい

学校をはなれるのがかなしくなってきた

☆篠永　文雄

これで母校ともおわかれするのだとおもうとかなしくなる。

☆鈴木　明子

みんなとわかれるのはかなしい。でも中学に入るのがうれしい。

☆高橋　久美子

卒業するにあたって、うれしくもあり又　悲しくもある。

☆山田　隆久

西田の学校や先生友達と別れるのはさびしいが中学校にいくのはうれしい。

☆花輪　幸吉

楽しく勉強をし　遊んだ六ケ年よさようなら。

た私は　一組には入ってなかった。次は二組である。順ぐりに
てさられた大島先生かよひ始めた。私は「竹中孝子」とよばれに
時はほっとした。なぜかと言うと　今まではずうっとその先生と
ったから　最後は　男の先生に受けもってもらいたいなと思って
いたからである。始業式も終ると、各教室に入った。すると　先
生が来て、黒板のはじに　大島信夫とお書きになった。私は　な
んとなくうれしくなったから、にこにことわらいながら帰って
母に「大島先生という男の先生よ」と言うと母も　にこにことして
「よかったわね」とおっしゃった。

江口　真

五年生の時に、「どんぐりと山ねこ」というげきをした。その
時　ぼくもげきはすきなので入った。ぼくの役は小さいどんぐり
だった。それから毎日れんしゅうにはげんだ。ぶたいに出た時は
電燈の光でまぶしかった。中ごろになるとぼくの出ばんで「ちい
さいのがえらいんだよ。ちいさいのが」というせりふだった。滝
水君は、男の子になった。ぶたいをおわると写真をとった。ぼく
はとてもそういうことがすきなのでとても印象にのこるげきだっ
た。

武田　信次

ぼくが四年生の時もうすく五年生になるのでうれしく思ってい
ました。時に五年生になってからの先生はだれだろうと思ってい
ました。五年生になってうけもちの先生は大島先生だったと聞い
てぼくはうれしいと思いました。ぼくは五年生の時どんぐりと山
ねこ」というげきをしたことがあります。ぼくはまえからげきな
どをしたいと思っていました。やっとその時はわがいかかなって
うれしく思いました。ぼくは六の年を通じて五年生の時かー番た
のしかったと思います。五年生もおえて六年生になるまえにぼく
はもうこんなにたのしいことはないだろうと思っています。

☆中村　克
卒業かちかずくにつれて　西田とも
れるのかいやになった。

☆小原　昭
ぼくは西田をふしに卒業してうれし
い。

☆藤原　央子
私は　卒業をするのがうれしいような
悲しいようなとてもへんな気持です

☆猪原　浩二
卒業に当たって　ぼくは　この学校の
ら別れるのかなごりおしい。

☆水原　孝子
私は　無事に卒業出来ることを何より
もうれしく思っている。

☆山内　祥子
元気に勉強してきたお友達、親切に指
導してくださった先生さようなら。

☆坂本　茜
本当に楽しかった六年間さようなら。

☆村田　瑛
もう一度あの広い校庭で　思うぞんぶ
んあばれてみたいものだ。

☆黒田　清
本当に楽しかった。六年間の学校生活
よさようなら。

☆多田　国之
みんなと仲よく一生けん命にやろうと
思う。西田のことは思い出に残るだろう。

六年生の頃

市谷　洋子

私は六年になった時、親しい友だちとわかれ東京の西田小学校
に転校して来ました。みしらぬ土地に来て困りました。高橋さ
んと遠藤さんとで学校に来ました。私は二人にあから感謝してい
ます。転校して五日目、お友達に悪口を言われ　男の子にいじめ
られた時、私はくやしくて泣きました。今でも思い出すと悲しく
なります。春の遠足は雨天でした。その楽しさは忘られません。
夏休みになって、始めて　いとこのさわ子さん　かおちゃん　に
ちゃんに会って楽しい毎日を送りました。二学期になって、待ち
に待った運動会が来ました。思うぞんぶん体を動かし楽しい運動
会でした。この一日は、始めてで多り、最後でもあるのです。秋
の遠足は、長瀞でめずらしい石を　たくさん持って帰りました。
冬になり始めて大雪に会いました。　でももうすぐ卒業です。私に
とって思い出の多い一年間でした。

秋山　櫻子

それは去年の夏の事であった。私は唱海学校に行く時の用意を
して　高橋さんと　その時の楽しさをなんども話しながら、その
日のくるのを待っていた。毎日　荷物を入れたり出したりして、
家の者に笑われた。ところが私は、おなかを悪くしてしまった。
私は、行かれなくなったら、皆と約束したのにどうしようかと思
った。けれどもやはり、当日行さはやめなければならなかった。
私は一人ぼっちになった感で　とても淋しかった。今頃皆は何を
しているだろうと考えた。すると、お友達の楽しく海で遊ぶ事や
美いながら食事をしている姿がうかんだ。私は一日中その事はか
り考えた。それから一日おいた次の日に駅に行って見た。ここか
ら皆　楽しく出発したのだなと思った。その日　六年二組の皆さ

んへと手紙を書いた。そうしたら、先生から葉書で返事をいただいた。私はその時ほどうれしかった事はなかった。

三上　幸子

立教に　入りたい一心で勉強しましたが、受験者が　ふえるにつれて不安になってきました。参観日の日に、少しいろいろな教室をみまわりましたら　とても立派だったので　こんなに　立派な学校なら、ぜひはいりたいと思いました。最初の日にはいってゲンの検査、次の日の試験には、一生けんめいにがんばりました。試験が始まる前に、十五分ぐらいの休けいで、なかなか落着きませんでした。でも深呼吸を二三回したら、ようやく少し気持がおちついてきて、これから試験をはじめます。と言ったのてよかったと思いました。さて三日目、面接だけでした。部屋をあっちにうつされたり、こっちにうつされたりしたので　この日も心がおちつきませんでした。いよいよこんど私の番だという時に、在学生に　「だいじょうぶよ。かんたんなことだからはきはき答えればいいのよ」といわれたので、少し安心して　面接を受けることができました。

坂本　義

西田小学校では、毎年秋には大運動会をやりました。ちょうどぼくが大年生の時でした。その年は雨でのびのびになっていました。としてやっと十月九日のいいお天気の日に最後の運動会がありました。父兄の方や同窓生やPTAの方がたくさんきてとてもにぎやかでした。ぼくは一〇〇メートルの徒競争では一等になりました。しょう品物競争では二等になり緑色のリボンをもらいましたので、すっかりうれしくなりました。その上紅白リレーでは紅組がかちました。ぼくは紅組でした。西田小学校の最後の運動会は今思い出してもほんとうにおもしろくゆかいでした。学校を卒業しだんだん大きくなってきてこの小学校での楽しかった運動会のことは永遠にわすれることはできないでしょう。

丹羽　朋美

月曜日の児童集会の時、頭がふらふらしたので　しゃがんでいました。そうすると、みんなが「先生」とよんだので、私がいやだなと心の中で言っていたら、先生が来ました。先生が「どうしたの顔がいたいの」といったから、「そう」といいました。そして先生が私をおんぶしてえいせい室までつれていってくれたときは、とてもはずかしかった。まだ一ぺんもそんなことがなかったからです。児童集会をするたびに、先生におんぶしてもらったことを思い出すとはずかしく思います。

榊原　典子

私は大カ年の思い出の中で　大年生の夏休みに　富津へ行った事が一番心に深く残りました。家を出て　四日間お友達といっしょに　生活をした事が　今ではとても楽しかったように思われます。私は、藤井さんと、御飯の時もいっしょにならんで食べ、また　勉強する時も　海へ行く時も　散歩にいく時も　みんないっしょでした。ねる時もいっしょでした。水の使が　もう少しよかったらよいと思いました。水が　いかに大切である事か　はじめてわかりました。ちゃいう所で　勉強するのもとても楽しいと思います。夜、先生といっしょにみんなで　海の方へ散歩にいった時の景色が　とてもよかったです。私の家の方でみられない景色でした。海の風が　ふいて海の遠くの方で　燈台の光が　ついたり　消えたりして、とてもよかったです。私にとっては、たった一つの思い出です。

☆国定　洋子

思い出の校舎いこの小学生活もたんだん終りに近くなりました。この小学校を出るのはかなしいです。けれども上にはやく進みたいと思います。

☆田辺　厚博

ぼくは　卒業も中学にいくのもいやになった。

☆柏木　志津子

小学校を無事に終え中学校に進学できることをうれしく思っています。

☆竹中　幸子

小学校生活をふりかえってみて楽しかったと思っています。

☆富田　彰彦

西田小学校を出るのは　悲しいけど中学校に行くのは　うれしい

☆西沢　宣昭

私はいに入って　兄のように　しけんに苦しむのだと思うと一年のころがなつかしく思う。

☆武田　信次

ぼくは、西田小学校を卒業するにあたって　いままでいじめられたり　いじめたりしたかいいのこすことはなにもありません。

☆池田　義子

「おめでとう。もう卒業ね。中学はどこにしたの」といわれても私にはピンとさません。考えてみればもう大年間たってしまいました。西田とわかれるのかと思うとむねが一ぱいになってしまいます。

☆茂谷　信次

卒業の日がまぢかになった。それからうれしいようなかなしいような感覚を覚えます。

僕の希望・私の希望

井口勝恵

ぼくは、四年の時、友人が　電気機関車をもっていたので、ぼくも、ほしくなって、おかあさんにねだってやっと　せんろとトランスと機関車をかってもらった時は、うれしかった。それから、すこしずつかってあつめたらどうやらそろった。ひまがあるといつも、トランスの中をあけてみたり　ハンダづけなどしてあそんでいる。この間モーターをつくった時はとてもおもしろかった。モーターをうちにかえってつくった。できたのを、電池につけてまわしても、なかなかまわらないのでトランスにつけてまわしたら　やけきれてしまった。

そういうところからぼくは電気にきょうみをもつようになり、大人になったら、電気技師になりたいと思っています。

菊原志二

ぼくは、大きくなったら、外国へいきたい。だから外国語をうんと勉強し　外国へ留学し勉強して、世界中を回り、各国のいろいろなめずらしいものを写真にとって　本にし、日本に送り、また日本のいろいろなものの外国に送って、日本のことを外国へうんとしらせたい。そして世界を平和にしたい。そして、きれいったところがあったら　そこにすみたい。日本国の家やなにかをつくってその国に広め、日本と貿易させ日本人をたくさんすましたい。それから　みかい地方をたんけんしてみたいとも思っている。

江口真

ぼくは中学校へいってから　おにいさんとおんなじに剣道をならおうと思っている。そして　大人になったら、剣道をしっかりとやって、剣道の先生になりたいと思う。ぼくは今すこししかやりかたをしらないので　おにいさんをまかすほど強くなりたい。ぼくはじゅう道をならいたいけれど　おにいさんも　剣道なので、ぼくも剣道をやって強くなっていきたいとぼくは思っている。はやく強くなり　うでをみがいて、大きな道場を自分でひらきたいとぼくは　考えている。小原君は柔道をならうといっているが、ぜったいぼくは剣道だ。いつか強くなったら小原君としあいをしたいと思っている。

綿方孝平

僕は将来の希望を、沢山持っている。一番なりたいのは野球の選手で　プロに入って川上のように大選手になり、皆をびっくりさせてやろうと思っている。野球の選手になり三塁を守ってファインプレーやホームランを打ってみたい。学校もたから野球の強い学校に入り、だんだんに努力して立派になりたいので一ぺんにうまくなろうとは思っていない。そして選手かためになったら水原かんとくのように日本選手権を四回も取るようなかんとくになるのだ。広い球場　緑のしばふの上で、どっくとやりたいのだ。同窓会の時にいって先生に野球を見てもらうのも僕の念願だし　僕のすきな友達に見てもらう事もうれしい。日本中を回り巨人のような所に入って アメリカや野球のさかんな国を回って国際親善もしたい。もしも野球の希望がだめになったら機械の電気方面に進みたい。電気をいじくったりモーターを組したりするのが僕は大すきだからでモーターの仕事で成功したら小さな会社でも作って社長になりたい。僕はえばるのがすきな性格でまけずきらいだからである。だから学校で遊んでいる時負けてやめるのがくやしくてたまらない。社会にでてそうなると皆からさらわれるかもしれない。自分でも悪い事だと思いなおそうとしてもなおらなくなってしまった。が、かわいそうな人がいたら助けてやりたい。もしお金が沢山入ったら学校を立派に建てて裏の畑やはにかを買って、運動場を広くしてみたい。三番は新聞記者になり早く正しくニュースを世の中の人々にしらせたい。あまり沢山になるのでこのくらい希望にしたつの内どれか一つになりたい。

小川昭宏

希望と聞にうかべると、なにかなんだかわからないほどうかんでくる。野球のせんしゅ、会社員　あるいは、電車の運転手などである。あまりかもたがしようぶではないので　なるべく会社員になりたいと思っている。ぼくの父だってえらかったので　ぼくも父のあとをついで会社員のえらい人になりたいと思っている。

でも、これは、子のせいもあるのでどうなるかわからないが、ぼくの考えでは、なるべくこの道を進んでいこうと思う。だが人生というものは、わからないものだから、大きくなって、自分の進む道だと思ったら、その道に努力し、母などいまの家族を、みな仕合わせにし、ぼくも、自分の力で、大きな家などを建てて、みんなで幸福にくらしたいと思っている。

落合　高介

小さい時は、なんでも有名な人になろうと思ったが、今は、動物が好きなだけにその方面に進みたいと思う。動物園を開くのだったら園長ぐらいにはなりたい。又養けい場をやってもみたい。どちらにしても、いなかに行きたい。都会は、ごみごみしていやだ。それよりも緑こい山を後に、きれいにすんだ小川を前に、広い庭をもって、わら屋根の家で静かに動物たちとくらしたい。商売は、もちろん養けいをしたり、畑をたがやしたり、又りょう師をやるのも悪くはないと思う。ともかくもいなかの静かな所で農芸畜産の方に進みたいと思っている。ぼくのお父さんのいなかが栃木県なので、時々そっちの方に行っているが、向うも実にいい。秋に行くと、ずっとつづいている畑の上をひばりが飛んでいる。遠の山は、紅く紅葉していて実にいい。ぼくも早くいなかに行きたい。

小野　徳彦

ぼくは、中学校でしっかり勉強して、私立の学校にいき、その学校でもしっかり勉強をして、大学生になったら、医学などを研究し、えらい医者になり、人々をたすけてあげようと思っている。計画だけでなく実行にうつそうと思っているが、なかなか実行できない。それに今のぼくでは、希望だけであまり勉強をしていない。だからもっともっとしっかり勉強しなければならない。医者になったらしっかり研究し、人々に役にたつようなものを発明したりして、世界の文化のためにつくしたいと思っている。

清澤　孝郎

ぼくは、あと半月で学校とも先生ともおわかれだ。そして中学校に、入学するのだ。ぼくは中学校に入ったら、いっしょうけんめいに勉強して、先生を喜ばしてやりたい。そしてよい友達を作り、中学一年で一番になってみたい。それには勉強が大切だと思う。そして高等学校や大学の試験も一ぺんでパスをして、大きくなったら、今お父さんがいっている安田火災海上会社の社長になってみたい。そしてお父さんや、お母さんを喜ばして大金持になってみたい。

黒田　実

ぼくは、今までまだ、大きくなって何になろうなどということを、考えてもみなかったので、めんくらってしまった。しかしよく考えてみればみるほど、あれもこれもとどでてくる。その中で一番よいと思うのは、会社につとめるか、それとも軍人になって海軍か空軍に入ろうと思っている。会社につとめて毎日々々つづくだろうかと考えたこともある。軍人になれば、空をとびまわったり、ふねにのったりすることもできる。ぼくの今の希望は、三つだが、将来は、どういう方にむかっていくかはわからない。けれどこの三つの内どれかを選ぶつもりである。

後藤　正雄

ぼくは、小さい時から、電車の運転士になりたかった。いまも電車の運転士になりたいが、数学ができないのでいまから勉強をします。もしはいれたら、金をたくさんためて、家をたててから、ぼくのできるものをそろえて金があまれば、ちょさんをしておいて、電車の運転をやめて、商人になってくらしていきたいんだが、これまではできるかわからない。

小原

ぼくは中学校へはいったら柔道へはいるのだ。柔道場はけいさつにある。ぼくのしょう来は警察官。ぼくは中学を卒業してから警察官をやるのだ。ぼくは大きくなったら、えらい人にはなりたくない。まじりんぼうにもなりたくはない。ぼくはふつうの人になりたい。ぼくはいまでも警官をできると思う。

ぼくの家ではたらいていないのは、ぼくだけさんのもの。だからぼくも仕事をやりたくなる。ぼくは柔道が上手になったら、江口君と柔道と剣道どの試合をやりたい。

それからぼくはいま野球を兄さんにおしえてもらっている。ぼくは大きくなったら野球もやりたい。たって家の兄さんは野球にはいっているからぼくもその男とをおっていくのだ。

小針　次男

ぼくは、小学校で一年から六年まで、大ガ年勉強をつっけてきたが、今、六年になって中学のことを思うと、つぎは、高校のこと、大学のこと、と次々と思つで、しまいには、おとなになる。この間いろいろなことをまなる。希望といってもぼくの希望は、警察

きくなってその仕事をやれたらどれほど　うれしいかしれない。まず運転手　車掌を兼ぬ。それにはいれとうもなかったら　はくは、工員　技師になりたい。そして、なにか自分で、研究してそれを作り出し、そしてそれよりよい物というようにしてみたいと思う。そして、ぼくは、まず　家を建ててしまいたい。こういったところが、ぼくの希望と思ったことである。

坂　本　　寿

ぼくは、大きくなったら何になるのかと　よく人にきかれることがあるが　何になったらよいか　自分でもよくわからなかった。いよいよ西田小学校を卒業し中学校へ行くのも近くなってくると、だんだんと何になったらよいかなと考えるようになった。ぼくは大きくなったら　お父さんと同じように会社につとめたいと思うようになった。それにはソロバンを練習しなければならない。又大学へも行かなければならない。会社につとめて、課長になり部長になり社長にまでなりたいと思う。社長になればお金もたくさんとれるし自動車にものれるからどんなにいいだろうかと思っている。社長になれば会社の中で一番えらい人だから　いばっていられると思う。今からうんと勉強してぼくの

世　倉　　稔

ぼくはいまの政治を何とか明るい世界にしたいものと思っている。でもぼくは政治やなにかはたいしてすきでないので　航空会社の　そうじゅうしになりたい。飛行機といっても、家々のせるのでなく　もっと小さいので　月の世界まで一日ぐらいでいける飛行機でも発明して自分でつくった飛行機にのってみたいと思う。小さいからといって　せんでん飛行機みたいなのでなくせんでんの飛行機の二倍ぐらいで　ふたりぐらいとぶことができる飛行機。空を飛べるようにする飛行機で、せまいところにはいるときは　ちいさくなってみたいになる。そして　はねをでさればだ自動車になるようなしかけの飛行機を作って乗ってみたい。

関　口　　洋

ぼくは　一年から六年の間に　いろいろなことがあった。はじめのうちは　ないおりしてから学校に登校したりもあったが　もういまはこの学校をでるのがいやだなあ。わかるかもしれません。ぼくはこの学校を出るのはいやだが　中学校　高等学校さらに　大学にかよいたいと思います。ほへは　将来の事はよくわかりませんが　自分の家で商売をしたくないと思います。それは、自分の家で商売をしていると　なんだか家がおちつかなく、一年中さわがしくなったりするので、ぼくは、りっぱなサラリーマンになりたいと思います。

高　橋　　猛　雄

ぼくは中学校が終ったら、やおやのでっちになってはたらくつもりだ。月給をもらったらすぐ貯金して、大きくなったらその金で家をたててやおやをはじめるつもりだ。そしてだんだん大きくしていくつもりだ。そしてもうかったら、母さんや　父さんや　兄さんに金をわけてやる。そして　日本一のやおやにするんだ。そうして、みんながかいにきたら、大々まけにしてやるぞ。そうして　てっちをたくさんおくつもりだ。自動車なんかをいっぱいおいて、しいれにいったり　うりにいったりする。ぼくがそんなふうになったら、先生にもいっぱい品物をわけてやるつもりだ。そしてテレビをおいて　かいにきたくさんふにみせてやるんだ。そして　日本中の人をおどろかしてやるつもりだ。いや世界中の人をおどろかしてやるぞ。そしてあちこちにとちをかってますしい人たちのために、家をたててやるつもりだ。そしたらみんなの家をたててやるぞ。下のころまでみんなりっぱにさせてくらしているよ。そしてやおやの　そうりだいじんになろうつもりだ　そのときは世界の人に品物をわけてやるつもりだ。

武　田　　信　次

ぼくは　将来　うちのあとつぎをしようと思っている。中学を卒業したら下町の意匠屋にいって修業をしてきて　修業がおわったらよい家で商売をしたいと思う。

新しい魚をみんなにたべさせたり　いせいのいい魚をたべさせたい。魚市場にぼくはなんかいもいったことがあるので　もうなれているので市場にいってかいだしがしたいと思っている。年をとったら子どもにあとっきをさせ　もうかったお金を社会のために使ってもらうことにしたいと思っている。

多　田　　之

ふだんいろいろ思っているけれど　希望などと考えてみればなにになりたいのかさっぱりわからなくなります。されど僕は　作ったり　考えたりすることが性にあっているみたいです。なにかといえば　すぐ金づちを持出してまねをして作る。ランオムでも　このころ少し作りました。お父さんも　理科と進みなさいと言っている。また考えることもすきだ。僕は　この問　引力とはどうして働くのだろう。働いている所は

に聞いてみたら、「それは、わからないといってるにしろ、引力が働くのか、ニュートンによって証明された水　理論だけでそれを証明するのは、物理学で実際に研究するのかでつまずというのだそうだ。その時は、てつ学をやろうと思ったが、」たいへんたいといわれた。ぼくは、一年から六年生まで、あっという間に通り過ぎてしまった。希望なんて大きくなってから、きめればいいんだと思っているうちにもう中学生だ。これから先しっかり学問を身につける。これが一番の希望。その学問を生かして　なにか自分の仕事を見つけたいと思っている。

田辺　保博

ぼくは大きくなってレスリングの選手になりたいと思っています。どうしてかというと日本の何級で一はんつよかったらオリンピックにもでられるし　世界各国のどこにでもいけるからです。ささはらみたいによくてそうはかんたんにまけないで、世界チャンピオンをもっていて、あとからくる人をみんなフォールやはんていでかってみたいと思っている。レスリングというスポーツもいい運動だからです。そして世界各国に名かしれて家にいけはゆうしょうカップをいくつもらいたいと思っています。いっしょうもあ、そういうふうにしてくらしたいと思っています。そしてお母さしぐみんなに安心をしてもらいたいと思っている。

宮田　敏彦

ぼくは、将来マラソン選手になりたい。どうしてなりたいかと言うと、自分で走るのが　好きだからです。いつか富津に行った時　もとの運隊の見はり所に行った帰りにマラソンをした。その時のようすを　ぼくがアナウンサーになった気持で書いてみよう。

「ただいま先頭グループが見え始めました。ここはゴールまであと一キロメートルの地点であります。ただいま　菊原　藤田、野口　八並　野口　一位の四選手が通過いたしました。」と、こういうふうに　は　いつもこの調子で二三位には　入っている

ぼくは、中学へ行ったら、陸けい五キロメートルにでたい。そして高校に行ったら　青森－東京間の駅伝マラソンに　東京代表になってでたい。次に　全東京「朝日国際マラソン」に出て三位くらいに入り　勝俣にポストン・マラソンに出たい。これだけ　みんな出られたら死んでもいいです。

富永　文雄

ぼくは大人になったら、お母さんとお父さんを家にさせていい家にすませてやりたい。そしてぼくはどこかの大きな会社の社員になりたい。その時は少しでも給料が多い方がいい。そして家は洋館と日本間などをたて、家はすべて電気器具にしたい。そしてねるのはベットでねたい。家のそばは静かなところがよいと思っている。また庭はなるべく広い方がいい。庭にはゆざをかい半分しばふにし、半分は草原にしておきたい。そして犬もかいたい。なぜかというとぼくは犬はすきだが、ぼくがおかあさんに犬をかってくれというとおこられてしまうので、ぼくはきっと大人になったら犬をかおうと思っている。そして犬はスピッツみたいに家の中でかうのはいやだ。秋田犬とかセパートみたいな番犬になるりっぱな犬をかおうと思っている。

中村　克

僕は希望と言えばあまり考えていないが、なるのだったら銀行員になりたいと思う。どうしてなりたいかというわけはない。ただなりたいと思うだけだ。僕はまた小さいころは、自動車の運転手になりたいと思っていたがいまはそんなことは全然考えていない。なかに希望といえば、将来のことではないが、世界中旅行したい。その中で一番いきたいのはスイスだ。それはのアルプス山脈をながめたりしてみたい　それかた僕は世界中の言葉をならって、自由に使えたら、どんなにべんりだろう。だから、中学へ行って　せいせいいっしょうけんめい英語を勉強しようと思っている。

西沢　啓

今日の新聞にも　きのうの新聞にも犯罪のことかのっている。そして　そこにたいていは　写真がのっているものである。僕は、この写真や　記事をよむことに　そこの場面を想像して、僕も大きくなったら　新聞社のカメラマンになりたいなあと思うことがこのごろ日ましに強くなってきた。それは　もし僕がカメラマンになったとして、僕のうつした写真を　多くの人々に見てもらう。そう思っただけで　むねがわくわくしてくる。この間の校内映画で、新聞の出来るまでをやったが、その時僕は、新聞記者はある文や話の中で大事なことだけを記事にするが　カメラの方でもそうであるから、まほどかんかよくなりたいなあとおもっている。それから　国語の力である　僕は国語はあまりいがある水　そのさらいをおしとおし、リ、ぼくがカメラマンになりたい。

野口杉男

ぼくたちも、いよいよ西田の学校を卒業するけれども、将来どんなことをしようかと思っていたが、ぼくは地理がすきであるから地理に関係ある所にいきたいと思っている。たとえば、交通公社の方もいいと思う。父さんも地理がすきだし、本当は地理系の会社にいきたかったらしい。富士山までいくのはどの線をつかって、どの道からいった方がいいとか、お客さんに教えてあげるように、そういう仕事をやってみたいと思う。ぼくは地図を見るのが大すきである。時間のたつのも忘れて見ている。下関にいくには、どういうようにいったらいいかなんて考えるのは大好きだ。だから地理に関係あるところにつとめたいと思っている。

野口並人

ぼくの希望はまだはっきりしていないが、サラリーマンで十分だと思う。サラリーマンにもいろいろあるかまだはっきりしていない。関口君と気象観測をしている時、ぼくが関口君に、「君は、彫刻などをつくる人になるだろう」というと、関口君は、「サラリーマンがいいやつ」といった。ぼくと同じ希望だ。だがその前に体をきたえなくては、と思った。そうして、おかあさんどーとこさんに、今まで育ててもらった分を、ごおん返しするつもりです。そうした時、お父さんやおかあさんのうれしそうな顔が目のあたりに見えるようです。

藤田

今度、中学校に進んだらうんと勉強して、ふと思って、藤田君と一緒に西高へいこうとつもりです。お父さんも、「今から勉強して東大付属なんかいかないと必ずいけないぞ」とはっぱ、西高へ行きなさい」といった。

大学二組六十名とは同じ学校で会えると思います。ぼくは、それだけがうれしいことです。

灰谷信次

ぼくはドイツ語を学んで、外国にわたり研究をしたいと思う。その学問というのは医学のことです。そうして医者になろうと決心したのは、昨年の春、ぼくの力にわたって黄熱病を研究して、自分の一生を病に苦しみながら死んだ。そしてアフリカの人々に尽されたろう、研究に専念し、そして自分も死んでしまったという所がぼくの心を動かしたのかもしれない。ぼくも医者になって多くの人を助けたいと思う。大きな研究所を作って、西田の生徒も、まなびたいと思う。

服部修

いよいよこの学校とお別れすることになりました。ぼくは、この学校を出たら、神明中学校に行くよていだったので、宮前中学校から通知書が来たので、宮前中学に行くことにしました。宮前中学を出たら、高等学校は、父から「西高を受けなさい」と言われたので、西高と豊多摩を受けることにしています。高等学校から、野球部に入ってすうっと野球を習うつもりです。大学は、野球の進んでいる所に入りたいと思っています。大学を卒業したらプロ野球の選手になりたいとも思います。プロ野球になれなければすもうとりになりたいと思います。

北輪孝吉

ぼくのいなかに信という人がいて、「ぼくは農業の勉強をうんとしてえらい人になるんだ」とかんばっています。ぼくは日本にもたくさん学者や博士がいて色々なことを研究をしている。またノーベル賞をもらったのは、湯川博士一人だけだ。それなのに外国では何人ももらっている。だからぼくも、日本人ももっと勉強をしてがんばり、日本をつくろうと思っている。信君もりっぱな農業の勉強をし村を豊にしてもらいたい。そして日本を豊かにしていこうと思っている。

深山康夫

ぼくは、まだ希望ということなんか考えていないでただ遊びたいと思う。だけど少し考えていることは、動物学者になりたいと思っている。家のお母さんは、もう年をとっているので、ぼくがお母さんを養べさせていこうと思うと、むねがいっぱいになってしまうので、ぜんぜん考えていない。お母さんは、「もっともっと勉強してすこしでもえらくなりなさい」と時々いっている。ぼくのつとめたい所は、デパートにつとめたいと思う。つとめてぼくの家を、きれいにしてお母さんをしあわせにしたいと思っている。

村田英

僕は、幼ない頃医学の方面のことを研究して医者になり脳や心臓について研究してみたいと思っていた。しかし医学の方面では、薬品及び生物に対してどんな働きをする人、またどの生物の方ではどうなるかというようなこと、研究したいと思っていた。けれども僕は目をなくしたことまった。それでもこの希望はすてなか

った。それから少しして僕の希望は　からりと変ってしまった。それは同じ科学ではある人、電気の方面である。僕は、これから先は　石炭も　石油も　みなはりつくされ、あとは少量で多く働きをする原子、水のエネルギーで出来る電気、このこつ小世界を人類を、守ることになるだろうと思っている。これからも電気電波の方面へ進み　ナショナルみたいな大きな電気会社の　技師また社長になりたいと思っている。

森谷　東平

寒い冷たい風の中にも春の訪れが感じられる。枯木のような枝にも小さな緑の芽が、もえはじめ水仙、チューリップの芽も　しもにこおっている、土の中からのぞいて来た。冬から春への自然の大きな力とともにぼくの心も大きくはずんでくる。小川の水がぬるみ桜の花のさきみだれるころがやがてやってくる。ぼくは小学校六年間のなつかしい思い出をむねに中学生生活をゆめに見ながら大きな希望を持って中学生としての第一歩をふみ出す時が来るのだ。小学校一年二年、三年　四年、五年　六年とむかえる年ごとに　小さいけれど新しい希望を持って進んで来た。時々大きくなったらなにになろうかしらと　いろいろゆめに見た世界は楽しかった。小さい時は自動車でも電車でも乗物の運転手になりたかった。なんでゆかいなことだろうと思った。大きくなるにしたがい　そえ写者になりたい医者になりたいと思った。自分を中心としたその時の周囲のようすで、いろいろと自分の希望もかわってしまう。顕微鏡を見る時は　科学者になり　たーっる　喜びさえ感じるのである。天文学者　医者　科学者それらの世界は　すべてぼくの憧れの世界であり　ぼくを勇気づけはげましてくれる。ぼくは今まだ知らない面の世界が見たい、知りたいと思うことでーぱいである。よくばりである。たけど　ぼ　は何か一つのことを通して世の中の人のためになることをしたいと思っている。それが何であるかは今がぼくにはきめられない。ぼくの進む道は広くそして遠いのである。

山田　隆久

ぼくは　今それをきめても　そう職になれない場合もあるか　今なりたいと思うものは　たくさんあってわからない。あれにもなってみたい、これにもなってみたいで　たくさんあるが、そのうちでも　新聞記者になりたいと思っている。出来事を早くみんなに知らせてあげたいのだ。それにぼくは　自分が新聞を作るのがすきだから、ときどき自分で新聞をつくって、みんなにわらわれる時がある。そして、自分が書いた記事が載って新聞にのったときはどんなにうれしいかしれない。そこで、その記事を新聞からきりぬいておくだろう。またぼくは、この間先生から　写真を紙型にあずけるのをみせてもらった。よくあんなので、あの紙に刷れるのか、ふしぎでたまらない。それに、輪転機一台で　新聞をさっさっと　はっさり印刷するのも、家事じゃないと思った。そしてそれを　印刷してすぐに北海道の方まで、あんなに早くつけるのも、ふしぎでならない。そして、記事がよく正しく書けるように早くして、外国へ特派員としても　いきたいと思ったし、一度太平洋をこえて　アメリカにもいってみたいと思った。新聞記者は　ぼくが考えているよりも、むずかしいかもしれないがぼくはなにしろそれになりたいと思った。

吉川　文孟

ぼくには、三つの希望がある。みんなやりたいが、よくばりすぎるので、一つでもちゃんとかなえられるといいと思う。希望の中、一つはます習字の先生で大島先生のようにうまくなって　おでしさんをたくさんもっておしえたいと思う。二つ目は、船長であの広々とした海をゆうゆうとのりきって　色々外国々へいきたい。もう一つは[illegible]

[illegible]時代がくるから、大はいの客をのせて、アメリカなどへいってみたいと思う。この中全部ためをったら　ほけっとして、プロデューサーになりたい。この中どれかかなう かしれないが　あきらめないで、希望はすてないようにしようと思う。

若林　邦彦

ぼくは、飛行機のそうじゅう士になりたいと思っている。なんで飛行機のそうじゅう士になりたいというと、飛行機の映画をみてからだ。大空を自由に飛べるからだ。もう一つは、どこの国でも強くいけるからだ。これからは、飛行場のことを、発達して　はやくそうじゅう士になりたいと思っている。これをかんがえるだけでむねがわくわくしてくる。こういう時は　いつも　水中眼鏡をかけて、ふとんやいすを飛行機かつこうにつくって、ぼうえんきょうをまえにおいて　それからよこにこうせきラジオをおいて、あそぶ時も有る。ぼくが大きくなって、いまにりっぱな　そうじゅう士になって　みんなを　おどろかしてやろうと思っている。そして世界のことをよくもうって　いろいろ[illegible]

秋山　優子

昨日　庭のすみへ行ってみたら、水仙のみどりの芽が　きれいに並んでいた。冬の寒い間　球根を土の中深くうずめられて、しもや雪の害をふせぎながら、「まだ青空が見えないかしら　まだ太陽の光に当れないかしら」と思った事だろう。水仙の希望は地上に出て、太陽の光に当りたい事だったのだろうと私は考えた。しかし人間の世の中には　悪い人がいたり、悲しい事が起ったりして　水仙の芽のように　自然に皆　芽を出す事が出来ない事がある。私は　皆平和で楽しく、おとうさんやおかあさんや兄弟やお友達と　仲良くいつまでも暮せたらと希望している。学問が進み、医学が発達して　私達のまわりの大切な人々の命をのばす事ができるようになった。皆、一生けん命働いて、やがて国が豊かになって、音楽を聞いたりして、皆仲良く楽しむ事も出来る。だから、私はしっかり勉強して　今に大きくなったら　少しでも人々のためになる仕事をしたいと希望している。

滝田　義子

私は将来のことを家で考えることも時々ありますが、どの問題によって考えかかわります。でも大体考えることは普通のことです。幹子は　大きくなったらピアノをひく人になりたいといってました。それで　この間かってもらったピアノにむかってポツポツ／＼と意を立てています。私がおとなになったらどんな人間になっているでしょうか。ママは　「それまでにしっかり勉強しておかないと大きくなってからこまる時に苦労しておけばよかったと思う様になるわよ」といいます。学校の宿題をパパにもってゆくと　まちがいかをくわります。もっとしっかり基本の勉強をしなければと思います。「それには、捨けいにいって勉強しなければ」とママやパパはいつもいいます。

盛森　和子

いよいよこの学校とも　お別れしなければならないと思うと、なんだか、さみしい気持になる　なかよしたった友達とも　はなれてしまう。たのしかった　遠足　運動会　また　みんなと酒津にいった思い出　このままみんなとはなれてしまうと思うと　なごりおしくてならない。二年間おしえて下さった先生、一年間おそわった先生、三年間　おしえて下さった先生、いつまでもわすれられない先生。あと一年ぐらい　この学校にいたいような気持。中学に上がりたいような気持がする。中学へいけばみんなとわかれてしまう。もう一度　みんなと　宿津へいきたい。しょう来は、色は、いそがしいのでふつうの家がいい。でも、なんとなく、おかしやさんがいいと思う。

柏木　志津子

誰とわずかで小学校生活を終えて中学に進みます。私は、小学校を終えるに当って　将来の希望を考えてみました。四年生の時、上級生が放送の仕事をしているのを見て私は放送部に入りたいと考えだしました。五年生になってうれしい事に　私の念願どおり放送部に入りました。始めていじる放送のマイクロフォン。私は　その時　「大きくなったら放送局につとめてそこで、いっしょうけん命はたらこう」と考えました。私は、それからいつも「放送局につとめよう」と考えるようになりました。私はこの希望を胸にいだいて中学に進学しようと思っています。もう一つ希望というほどではありませんが、私ははずかしくなるとすぐ赤くなるので　私はこの赤くなることがなくなるとよいと思っています。

国定　洋子

私は　早く大きくなって何になろうかと考えたことがある。その一は、先生だ。先生とひえばいえばなのかがある。医者の先生になりたいのだ。でも私は勉強があまりできないからだめだろうと思った。でもちょっと思にそのことを言ってみたら、わらって　うちなたは、なまけものでしょ。それに頭の方も　すこしもはかさんだから、よした方が　よさそうよ」とおっしゃった。私は何だか　くやしくなったので　「いいわよ　勉強すればいいんでしょ」といってしまった。でもなんたかへんなこと言って、わるいことをしてしまったなと思った。私はよくばりたからしょう来の希望が二つある　その二つめというのは　かんご婦になるということである。私は　この仕事なら　せったいだいじょうぶと思って、また、母にいってみた。すると　横合から　弟がでてきて「おねえちゃんかかんごふになるかか　弟みんなになんでもさたかるくせになれるもんか」といってにげていった。私は　「弟なんかなんか　早くもこっちにいきなさい」とさけんだもなれないくせに、なまいきにうるさいわねいといってしまった。すると　母がてさき　「なんです。そんな所でけんかして」洋子は、こっちにさて　はなれていらっしゃい」といった。私は　おこられるのかとおもいびくびくしていたら　やかてやさしい声で「洋子ちゃん　りっぱなこのいりのは　早くやすやすと

なれるものではありません。それに、ちゃんと、かんごふになる修練をしなければいけません。しっかり学びなさい。といわれた。私は、うれしくなった。

私が、かんごふになりたいとおもうようになったわけは、ずっと前、弟をかんびようした時、母が、「かんごふさんになるといいわね。」と、おっしゃったことからである。

鹿渕則子

私は、大きくなったら飛行機に乗っていろいろな国をまわってみたいと思います。私の一番はじめにいきたい国はスイスです。スイスは写真でみても景色がよい国です。そして戦争もしない国です。私はそういう国がだいすきです。そして日本もそういう国にしたいと思います。つぎにエジプトにいきたいと思っています。そしてエジプトにあるスフインクスや、ピラミッドを見たいと思っています。そしてそのほかアメリカ、フランス、ドイツなどの有名なものもみたいと思います。

齋藤美美子

私は、希望という。でも、今は何もありません。四年生のころは、おどりをならっていたので、おどりの先生になろうとこころざしていました。けれども、私は五年生の運動会の時に、国にぬれたので、かぜをひいてしまいました。そして、おとりが休んで、お医者さんにかよいました。なかなかなおらないのでおどりをやめてしまいました。それからというものは、おどりの先生に会うたびに、おどりをならいたくなって、おかあさんにいうと、「いきたければいってもいいわよ。」といわれましたが、勉強がいそがしいので行くことを、あきらめてしまいました。

阪本千恵

私のしょう来の希望は、幼稚園の先生になって、小さい子供に歌や絵をおしえてあげたりすることです。そして楽しく仲よく遊んであげたら、どんなに楽しいだろうなと思います。幼稚園の生徒にやりたいことを勉強させ、遊びたい遊びをさせ、晴りには家まで送ってやり、幼稚園を卒業するころには、国語の字を教えて書かせたり、算数の数字を教えてやって、世の中のためにやくにたつ人間にしたいと思います。

鈴木朔子

私は今そろばんを習っている。四年生の時から、すっとそろばんを習って来た。今では何もなれて三級にまでなった。入ったばかりの時は、なにも出来なくてはずかしかった。でもだんだんなれてくると、そろばんがおもしろくなって来た。級が上るにつれ、お母さんやお父さんがほめて下さるのでうれしくてたまらなかった。お母さんは、「そろばんが出来るとこまらないからねえ。」といっている。私は早く一級ぐらいになってみたい。一級になったらどんな気持がするだろう。お母さんが、「一級とったらなんでもすきなものを買ってあげますよ。」とおっしゃった。お父さんは、「大きくなったら先生か銀行員になったらいい。」とおっしゃっている。私は銀行員になりたい。それは銀行ではそろばんが生だからである。ですから銀行員になるとそろばんが出来るのでどうしても銀行員になりたいと思っている。二つも希望があるので、その一つをどうしても実行して、お父さんや、お母さんにご恩かえしをしたいと思っている。

大門康子

私はおとなになったら、家庭科の先生になりたい。家庭科と言っても、お料理や、ぬい物などがあるけど、それを、全部でなくぬい物の方をやりたい。けれど、ぬい物ができなければだめだから、今からぬい物のおけいこを、母から教えてもらう。早くおとなになって家庭科の先生になりたい。洋服や、着物など、作りはいい。家でぞうきんを母がぬっていると、私も前をもちたして作ることもある。私が針をもってぬう時はみんなとちがうもち方をしている。だからこれからみんなと同じもち方になりたい。そして、色々な物を作りたい。家そくの物も作りたい。

高橋久美子

私は、中学校にいったら、バレーボールの部に入りたいと思っている。でも私はおねえさんみたいにうまくなれないといわれているので、くやしくてたまらない。だが私は、体があまりじょうぶな方ではないので、あまりかっぱつには出きないと思う。でもうちでは、体そっては、しょう来やっていかれないから、日かのものをやりなさいと反対されている。でも私は、できるかぎり努力し、バレーボールの先生には、なれなくでもいいから、しっかりとそれをさりぬいていこうと思っている。

武内洋子

私は、今お琴をならっているので、これからも、根気よくやってお琴の先生になりたいと思っている。私はすくみすれてしまうので、なれるかどうかはわから

ない。いつも先生の所でならって　家に帰ってからやってみるとひけない。先生に　「前にやったのもさらっておきなさい」といわれているので前のをさらっている。きょ年の十月に　細田先生の会にださせてもらった。みんなにほめられたが　実際に　その日になってみると　むねが　どきどきし　おびかさつくでよく出来なかった。立くめ人は　「どんどんそういう会に出ているうちに　自信がついてきてうまくなるよ」といってくれる人もいるので　いつそうたくさん会に出てりっぱな先生になりたいと思う。これは　じっさいになるかどうかはわからないが　今は　そう思っている。

竹中　幸子

私は小さい時　キングーブックを見て　「女のおまわりさんになりたい」と母達に言ってみたら　「おまわりさんは　悪い人をつかまえたり　しなきゃならないのよ」と母達が言ったので　私は女めおまわりさんに　なるのをやめました。私は　一人で仕事をするのがいやなので　二人ぐらいでやるのならいいのです。それだから　お父さんといっしょに仕事が出来るから　女医になろうとも思いました。けれども私は　うんだ傷などを見ると　目が自然にまばたきをして　ひんけつを起すので　立派な医者　なれない。まるりは　やめる事はかりなので　今の所　希望という希望はありません。やさしい良いお母さんになりたいと思います。

椿原　史子

私はこの学校でようすぐ卒業をしなければなりません。私は中学校へ行ってせいっしょうけんめい勉強して　世の中のために　役立つような事をしようと今から考えています。それが実行出来れば　うれしい事です。でも私の計画はいつも実行が出来ないので　今度からとうすれば実行出来るかと考えています　お母さんがお医者さんなので　私は薬剤師になろうと思います。でも勉強が出来ないので　とうかを思います。中学校へ行ったら　もっと勉強をするつもりです。私の希望というのは　その位かもしれません。小学校の卒業するとお友達と別れ別れになるので　さびしい。一人になっても　けっぱな人間になって　日　助けてあげたいと思います。

尹根水　静子

私の希望は　かんごふさんです。かんごふさんは人の生命にかかわりがあるので　国家の試験にうかってそれに合格した人が　なれるそうです。そりゃ大変なことだすけど　立派な人　なれない。なりたいと思います。

けれどもなれないのです。もし入れるのだったら　大きな病院のかんごふさんに　なりたいと思います。かんごふさんといっても　手術などするのではないのだから　医者よりかもらくな気もしますけど　病人をあずかるというのは　たいへんむずかしいようです。その中で　産婦人科の方では　お母さんがおきられない時など　おしめのせわまでやるのです。でもそういう仕事は　病人には役立つと思います。この前　「ひめゆりのとう」という映画を見ましたが　戦争で　けがをした病人は　おむすびとどろが入っているような水が食物です。イギリスのナイチンゲールは　戦争と戦いながら　病人をはげまし　かいほうしてくれた人です。今でも　かんごふで病人によいことをした人には　「ナイチンゲール賞」というのが　おくられています。おくられた人は　今まで苦労した人ばかりです。入る時は　だれでも思うそうで　すが　入っていく中に　たんだんつらくなり　やかてやめていく人もあるのではないでしょうか。私も　もし入れたら　三日ぼう主でなく　長く続けたいと思います。

内藤　せつ子

私はまたしょう来の　ことを考えたことはなかったが　最近になって私はなにになろうかなどと考えるようになりました。そして小さい時などは　みんなから学校の先生になれ　などといわれたが　このごろでは　そんなことよりも銀行等につとめてみたいとか　かわいそうな子供達を　育てている孤児さんみたいなことをしたい。それから　私は両々乗行機に乗ってみたいと思う。それから今まで書いたことは　自分のやりたいということだけだが　私は　日本のため世界のためにつくせるような立派な人間になってみたい　そうするには　第一には　かんご婦さんになって　病気の人達を　たすけたい。私の書いたことが一つでもよいから実行できれば　ほんとうにうれしいと思う。お金があってもみんなをいじわるしてはしようがない。私は　みんなにすかれるよい人間になりたいと思う。

永田　路子

私は　しょうらいのことをまだ考えていないが　もう六年の終りです。でも私は　学校で作文を書くのがたいへんへたなのでたまりません。私はわさいについてすすんでいきたいと思います。私はそれについて手のうこがしゃ方をうんと練習してわさいの先生になりたいと思います。ずっと前に家でおばさんが私に　「学校へ行ってごらん」といっていたが　私は　自分ことでいっぱいでいたいに私は先生になれるしんぱいは

ない、と決心しました。私はどうしてもわさいの先生になりたいと思う。

夏目　美智子

私は、希望というものはないけれども、学校を出たら、父達はなにかの事務になって、働いてみたらといっているが、私は、家でようさいやら、あみ物がよいと思うが、それは、その時になってみなくては、わからない。けれども、今は　そういうことしか考えていない。もしかしたらば、ちがう仕事になるかもしれない。

瀬口　涼子

どっぜん希望と言われてもよくわからないが、これから中学へ行き高校を卒業したら、洋裁学校へ行って、そこを又卒業して、私は　何もえらい人には、別になりたくないから、家のお店へいって、一生けん命働いて、お父さんや　お母さんに親こうこうをしたいと思う。そしてお店へ、行ったらお兄さんか　二人もいるから　そのお兄さん達においしいお菓子を沢山作ってもらって、いいおとくいさんを沢山作りたいと思う。何にしろ私は、希望した中学校へ、入れたのだから　そこで精一ぱい勉強をするつもりである。

瀬戸井　高子

私はこの学校を卒業して女子美術大学の付属中学校へ入学します、そして、絵の勉強をたくさんして大学まで上がりたいと思います。そして、大学を卒業したら、絵の先生か　デザイナーになって　ショーウィンドめ　かざりつけや、デパートなどのいろ〳〵なかざりつけをしたいと思います。そして　一年生ぐらいから大年生ぐらいまでの子供の絵をおしえてあげたいと思います。そしてお金をうんともうけて、こまった人を助けてあげたいと思います。

舟橋　明美

私は、大学を卒業したら　ようさいをならったり、お人形を作ったりしたいと思っています。お人形をならったとしたら、花よめ人形や、おどりをおどったりしている人形を作って、家にかざったり、おみせや作ってうったりしたいと思っています。四十才くらいになったら　お人形とようさいをやめて家にいようと思います。

増田　洋子

私は大きくなったら、ラジオにでてうたをうたう、歌手になりたい。そしてみんなのまえで　むねをはって元気よく歌をうたってみたい。それから映画にもでたい。私は小さい時から歌が大すきで、おうちにいる時も、学校でも外でも、おそうじする時でも　いつもうたをうたっていればたのしいのです。このあいだ油っぽにいった時、バスの中で歌をうたっていたら、きもちかわるくならないので、とてもよかった。それから、家でも歌をうたっていると、りっこちゃんのおばさんが、「のどじまんにでなさいよ」などといいます。はやく大きくなりたい。

三上　幸子

私が　おとになったら、アナウンサーになりたい。ラジオを聞いていて、とてもよい声なので、私もあのようにいい声がでるように、家で練習しています。それを、私の前の家のおばさんに話したら　「声がいいからだいじょうぶだけれども、何万人に一人というほどむずかしいかよ」と　いわれたので、私は　がっかりしたけれども　もう一度考えなおした。そして今かもう練習をして　勉強にはげもうと思う。もし　なれなかったら　どうしよう。そしたら、私は歌手になりたい。これから、中学に入ると英語をならうから、英語でもうたえる。二、三、と、むねがわくわくしてはずんでくる。そして、アメリカや、フランスや　いろいろな国々へ、飛行機にのっていきたい。もうこうなると、アナウンサーにも、歌手にも、飛行機のガールにもなりたい。美空ひばりみたいに、プールなどを作ったり、雪村いづみみたいに、家などをりっぱに作りたい。はやく、中学も終って　高校も終ってはやく大人になりたい。

水原　孝子

私は　もうすぐ中学へ進む。中学へいったら、何の勉強を一生けんめいにやろうかと　このごろ考え出した。私のしょう来の希望は、スチュワデスなのだ。だから、英語などを一生けん命に勉強しようと思う。なぜかというと、スチュワデスは　世界各国へ行ける。また、私のあこがれの飛行機にも乗れる。私は人の世話をするのが大好きなので、もし試験に落ちたら、家のきっさ店で働くかもしれない。でも私の出来る仕事っぱいのことは　うんと勉強して、勉強の出来る子になることかもしれない。中学から、高等学校、大学へ進むか、それまでは、一生けん命勉強して　父や母に苦労をかけないように、望んでいる。

三輪　圭子

別に決っていないが、私は習字の先生になろうと思っている。「今の世の中は女子でも職業を身につけていなければいけない」と、いつか母にいわれたことがある。だから私は習字が好きだし、自分の希望した中学校にも入れたのだから、中学校へ行ったら習字の先生について、みっちり勉強したいと思っている。でも父母は、あまり賛成してくれなかった。それは、私がおとなしいから、少しでしゃばり位にしたいからかもしれない。父母が反対しても、私はお免状をもらうまでいかなくても、どうしても習字をもっと勉強したい。今の自分としては、これだけしかいえない。

山内　祥子

私は四年生の時、「幸福の星」という題で、たんていしょうせつを書いたことがあります。それは、「少女」という本に出ていたのを真似して書いたものでしたが、どういうきっかけか、六年生の三学期の始まったばかりのころ、市谷さんが「少女小説の書きっこをしない？」と言い出し、私、市谷さん、佐藤さん、池田さん達も加わって、書き初め、二月十四日までに書き上げるように約そくし、思い思いの少女小説を書いたのでした。少女小説になるというより、「わかさんをさがす」というものにかたよってしまったのですが、そういうとこから「親答」ということも身はえていくのではないでしょうか。もっと小学校を卒業しますが、中学校に入って組がばらばらになってしまってからも、どこかの家へ集り、見せ合おうと思っています。豆作家と言うのではなく、遊びとして、続けてゆき、主婦になってからもゆとりがあったら書き続けて、ゆきたいと思います。

市谷　平子

私は今まで、しょう来のことを考えていませんでした。大きくなったらぜひやりたいというしょう来の希望もありません。もう卒業するので、しょう来のことを考えなければなりません。でも私は、今思っている夢のような希望のようなものを文に書きあらわしてみます。今思っていることは小説家になりたいのです。それは、えだらない小説でなく、子供達の童話もついでに書くのです。でもお母さんは、「私たちが女学生のころも、みんなが小説家になろうと夢を持っていたのよ。それが夢をはたさず、そのまま小説家の夢は消えて行くものよ」といつも言っています。その時、くやしがっていたよ　小説家になったよ　母先行にいれば満足です。第二は、映画はいゆうです。けれども教育のための映画です。たとえば「ひめゆりの塔」「しいのみ学園」「ひろしまいなどです。でもこれも、女達があこがれるものなのです。私の考えは、まだまだたりません。中学校に入り、しっかり勉強して、しょう来のことをよく考え、自分の進むべき道を、見つけたいと思います。そしてきめたことを、しっかりと身につけ、少しでも貢献する平和のために、つくしたいと思います。

周柄　登恵江

私の希望は、中学校卒業してから、おじさんの家へいって、てつだいをします。ですけれど、私のいちばんなりたいのは、なにわぶしの先生になりたいと思うのです。けれど、私にできるだろうか。けれど、ほんとうにすきなのだから、ならえばできると思う。私のなりたいのはそれだけです。

お家の方々から

☆藤井　美智子　　母　子へ

桃二から数枝して参りました当時、私の子供今、みなさんの中に入って、仲よく学校生活ができるかと不安でした。が、みなさんのあたたかい思いやりで、楽しく三年間を通学いたしました。お別れの日が来ましたので、日ごろ心に思っています感謝の気持を、文字につづってみなさまにお礼申し上げます。

☆坂本　一夫　　母　父へ

暑い日も、寒い日も、雨風にもまけず六年という長い年月を元気に勉強したかいあって、しゅうしょう卒業で、誠におめでとう。諸君にとって一番なつかしい面影の立と、先生の恩は一生忘れないで下さい。又一番親しかった友達とは、互に手をとり合い助け合って、世の荒波を乗り切って下さい。

☆黒田　忠行　　母　父へ

二年間お世話になっています。私の子供達　二十

二才を頭に本年卒業されていただきます四人目を最後に、それぞれ皆お世話になりました。私自身ふりかえって考えますのに、小学校の大年間が一番思い出なつかしいものでございます。皆様もやがては立派な社会人になる方々、どうぞすこやかに人に迷惑をかけない智慮ゆたかな人になって下さい。

校長先生始め、諸先生に深くお礼申上げます。

☆藤原　千枝子　　夾子（母）

皆様卒業の日も間近にせまってまいりましたが、これも諸先生方の一方ならぬお世話によるものと深く感謝いたしております。遠足への旅行、中学入試といろ〳〵楽しいことつらいことなどの思い出はつきません。これからも心に明るさを失わないで進まれますよう祈ります。

☆落合　久　　高介（母）

卒業ももう目の前、月並みことばながら早いものだと思わずにはいられません。始めて学校へ連れて行った日　私の方ばかりふりかえっていた頼りないあの子の姿が思い出されます。それから大年、先生始めお友達の方々に感謝の気持で一杯です。

☆武内　けいこ　　洋子（母）

ご卒業なさる皆さんおめでとうございます。今は取りはらわれた旧校舎　プールの前の一年生の時の教室から一つ一つの思い出をたぐりよせて、お話してみたい思いにかられます。あの温い友情と信頼と、中学校へ進まれると共により厚くなさって　楽しい毎日を過される様に祈っています。

☆藤原　幸子　　和子（母）

清々しい緑の丘に育った皆さん、私共も事ある毎に親身かこの丘に登ってまいりました。長い間、諸先生にお世話になった皆様は勿論　私共父兄も忘れなれた恩を頂れる想いがいたします。夕飯の仕度をしながら子供と共に口ずさんだ校歌、皆様ご存知のように清く正しく踏んで行って欲しいと思います。

☆村田　保子　　英（母）

さくらのつぼみもふくらみかけて、春も間近に完成をしのばせている。とう〳〵わが子も卒業だ。大きなぼうしに、黒いランドセルの後姿を、ついこの間の様に思うのに……。本当に早いものと思う。遠足に運動会に楽しい行事を積み重ねて早や大年　自然に恵まれた環境で　思う存分羽をのばしてきた子供達も、やがて中学生となり第二の人生へと巣立ってゆく。数々の想い出を胸にひめ　やさしく見守って来て下さった先生方のご恩を忘れない様　そして今の純真な心をいつまでも失わない様　そっと祈らずにはいられない。

田辺　すき　　保博（母）

卒業に当り、ただご卒業なさる皆様方健康である事をのぞんでいます。

山内　節雄　　祥子（父）

嬉しさにそわそわしているこの頃のわが子をみるにつけてきよ弱な体質をもって入学した時の不安な気持を思い出します。よくもここまで成長したことかと思うにつけ、今の丈夫に育った姿は、一つは諸先生方のいつくしみ深い教育のたまものと　本人の努力の結晶とも考え　感かい深い気持になります。

五、別れ（六十二人におくる言葉）

◇斉藤美美子
いつもはずかしそうにする斉藤さん。もう少し元気を出しなさい。まじめによく仕事してくれたその気持。やさしい気持をいつも持ち続けてね。又健康にも十分気をつけなさいね。

◇阪本千恵
おとなしいようでもあり、又忘れんぼうでもあった千恵ちゃんしっかりやってね。やろうと決心した時のあなたの目、それはすんでいてとても美しい。努力を忘れずにがんばってね。

◇森谷東平
努力家の東平君。コツ〳〵やらせるとおとなしい東平君。君は人と争わなければ本当にいい子なんだがなあ。もっとかん容で他人に耳をかしてあげなさい。

◇山田隆久
努力家の山さん。君にはもっと元気を出せといいたい。少し前かがみになるから姿勢に気をつけてね。

◇舟橋明美
明かるい少し茶目っ気があった舟橋さん。仕事に熱心だったが少しあき易かった。最後までがんばるんだ。つまらぬ事は気にしない方がいいよ。もっと強くなれ。

◇増田洋子
よく言い合いをして先生の所にきたね。もっと強くならなくてはだめだよ。健康に注意して学校を余り休まないようにね。

◇小針次義
名をさされると、すぐ赤い顔をして頭をかくくせのある小針君。もっと元気を出せ。工作をしている時の君の姿は尊い。真剣そのものだ。算数もその気で勉強してくれ。

◇小川明宏
お父さんと早く別れてしまったが元気をお出し。君の希望のように、お母さんや弟さんを幸福にさせる責任があるんだ。健康に注意して大いにがんばってもらいたい。

◇緒方孝平
いつも先頭に立って物事をやってのける緒方君。君の手腕は本当にすばらしい。しかし、自分の腕にうぬぼれては困るよ。健康に注意して一生精出すんだ。それと同時にみんなをかわいがれ。末っ子のためか、時々我がままがでる。大いにつつしんでもらいたい。

◇田辺保博
野球にサッカーに大いにとびまわった田辺君。勉強の方もその気で活躍してくれ。少しだらしのないのが欠点だ。

◇夏目美智子
人に親切だった夏目さん。先生に一番先に近よって来たのはあなただった。物事に少しひかえ目すぎる。もう少し元気を出してね。ドッヂボールの時には大いに活躍をしてくれてありがとう。

鈴木明子
少ししっかりしすぎる程しっかりしていたが、もう少し明かるさがほしいと思った。希望通り早く一級の試験が受かるといいね。

◇吉川文孟
体の大きいわりにおとなしく、気のやさしかった吉川君。君はもう少し自分の意志というものを出してもらいたい。いつも人の後についてやるようでは、又、後で都合が悪いからとかいって変更するようではいけない。ひより見的になると友達ができない。

◇井口勝憲
君も案外おとなしい方だったね。よくかぜをひいたりして休んだから健康には十分気をつけないといけないね。字の書き方が少し乱雑だったからていねいに書くこと。

◇江口　眞
よく女の子をいじめたね。もう中学生なんだから、こんないたずらはしまいと思う。クラス会の時など大きな声で、いい意見を出したのは君だったね。少し努力がたりない。しっかり勉強するんだ。

◇小原　昭
東田からよく通い通した。雪の日などは大変だったろう。君は江口君とコンビになっていい事、悪いこと何でもした。もう少しよく考えてやってもらいたい。

◇竹中幸子
体は小さいがよくがんばり通してきたね。先生は、盲腸炎の時のことを考えるとそっとする。健康に十分注意してね。やろうとする意志はあるが、少し消極的だ。自分の思ったことははずかしがらずどんどんやるんだ。それがあなたがのびていく道と思う。

◇柏木志津子
落ちついていて本当にしっかりしたいい子だったけれど物事に少しひかえ目すぎる。はじを知ることも大切だが、物事におく病になりすぎるのは、なおいけない。

◇富田彰彦
運動に、学芸会に、そして児童会に一心に働いてくれた富田君。先生は君がもう少ししんちょうに物事をやってくれたらと思う。塀をのりこえたり、そうじをサボったりするのは君の欠点だと思う。

◇浜田信次
運動会の時の応援団長、そして交通部長として大いに働いてくれた。なかなか活動的であったが、その反面悪ふざけをよくした。君もやる前によく考えてみるんだよ。

◇内藤せつ子
学級の会計部員としていろいろ働いてもらったね。世話好きで、よくいろいろのことをしてくれた。しかし、この事が又、あなたの欠点でもある。時として手を出さない方がよいこともある。むずかしいがよく考えてね。ソロバンにも精出しなさいよ。

◇永田昭子
遠く故郷をはなれてただ一人東京へやってきて、ずい分さびしかったことでしょう。でもいつまでも人になじまないのはいけないね。もっと明かるくなって、みんなと遊ぶんだね。

◇中村　克
とても頭のよい子だった。しかし、君はすぐに損得を考えるから友だちから余り好かれないんだ。もっと子供らしくなってもらいたい。それから、目が悪いためもあるが、字劃が少し悪いから注意したまえ。

◇小野憲彦
学校園の手入れに、暑い日もいとわずよく働いてくれてありがとう。君は少し物事に乱暴すぎるから注意するんだね。ノートなどもていねいに書くんだよ。

◇花輪幸吾
君は少しあわてんぼうだったね。答案用紙に名前を書かないこともずい分あったね。もっと落ちつくんだ。それから許しなくだまって物を持ち出さないこと。

◇深山康夫
思いつめると熱心に物事をやるよい子だが、なまけ出すと何にもしない極端な性質だよ。それに、君は授業中よく人をつついたりするようなこともしたね。もう中学生なんだから、そんなつまらぬことはやめて、勉強に精出すんだ。

◇黒田　貴
なかなか活潑で、よくあばれたりけんかもしたね。男の子だからそれもいいだろう。しかし、自分の本分を忘れてはいけないね。どちらかというと君は余り勉強しない方じゃなかったかね。それから健康に十分注意するんだ。二度と長く休まないようにね。

◇坂本　壽
坂ちゃんは選手となってよくがんばったね。勉強の方もその気持でがんばるんだよ。君はきちょうめんの方だから、一心にやればよくできる。先生に言われてから勉強しないようでは困るね。

◇三輪重子
あなたは三人姉妹の一番上。女ばかりなのでもう少し強くならなければいけないね。もう少しはきはきしてるんだ。勉強はまじめによくやったが、みんなの中に入ると、はずかしがっていけない。正しいと思うことはえんりょしない方がいいね。

◇秋山瑞子
その名のように、うるわしく、そしてすなおなよい子だった。一人でもやり抜く強いものも持っていたが、少し決断力にかけていたようにも思う。六年になってから、はずかしがって先生に余りよりつかなくなったが、相談をする時などえんりょはしない方がよい。

◇若林邦彦
末っ子のためか、少しあまったれのようなところがあったね。時々奇声を出すので、みんなから、「君、若」の愛称で呼ばれていたが、いい気になってはだめだよ。一人だちできるように努力するんだ。

◇西澤宣昭
「ニートン」「ニーちゃん」のニックネームをつけられ、級の人気者だったが、少

し気が小さかったね。クラス会の時など進んで発言出来なかったし、授業の時にもさされるとすぐ首をふってばかりいたね。もっと男らしくした方がよいと思うよ。

◇柄間登喜江
学校がきらいになってしまったのか、よく学校を休んだね。中学校に行ったら、まじめにやるんだよ。そして一心に勉強するんだ。

◇鯉渕則子
六十三番池同士仲がよかったし、性質もよく似ていたが、あなたの方がもっと内気だったね。しっかり元気をお出しよ。そしてのびのびとくらしていくんだ。ちょっと舌を出すくせがあったね。

◇関口洋一
女の中の一人息子だからもしれないが少しおとなしすぎたね。もっとはきはき発言しなくては損だよ。野球や、サッカー、リレートの選手の時のように、いつも活発であり たいね。

◇服部　修
ハッちゃんは少し欲がなさすぎるね。もう少し欲を出さなくては。欲のないことは又いいことでもある。これが君がみんなから好かれる理由かも知れないが。思ったことがないのはいいことと思う。みんなから別れていくので、なお一心に勉強するんだよ。

◇山内祥子
山内さんは、少し体が弱いからくれぐれも健康に注意するんだね。あなたは勉強よりも健康に第一と心がけるんだ。思った事がいえるのはえらいと思うが、時々舌を出すのはよくないね。

◇遠藤和子
人に親切であったのは大変いいことだね。あなたは少しはきはきしないから、少し明かるくなるようにつとめるんだ。勉強で

て努力次第だと思う。

◇猪原浩二
浩ちゃんは頭がよすぎて余り勉強しないくせがあるね。やさしすぎてつまらないのかも知れないが、まじめにやらなければだめだよ。階段は一ぺんに十段ものぼれやしない。たえず努力するんだ。又、君は少し怒りっぽいすだから気をつけなね。

◇灰谷信次
灰谷君は案外やさしい性質だね。けれど少しサボるくせがあるね。宿題などもだまっていると何枚も出さないことがあったね。これからそんなことのないように気をつけるんだ。そして思ったことはどしどし実行にうつすんだね。

◇戸根木尚子
大きなわりに案外はずかしがり屋だったね。もっとはきはきするんだよ。それから思ったことはどしどし実行するんだね。他人の顔色を見たり、又、責任のなすり合いをするのもよくないことだと思う。最近成績がよくなってきたのでこのままいって下さい。

◇国定洋子
答える時に口をふさぐのはよくないね。はずかしがらずに思ったことは堂々と言いなさい。それから人のことをあれこれ言うのもよくない。もっとみんなと仲よくしなくてはね。あなたは一番上だから責任は大きいですよ。

◇多田国之
どの科目みんなよくできた。これは君の努力のたまものと思う。しかし、君は気が少し弱すぎるね。富津に行った時もそうだった。もう少し大たんになれと言いたい。けれど人を悪く言えというのではない。人に親切であることは大たんになったからといってもかわりはない。くれぐれも健康に注意して勉強下さい。

◇村田　瑛
長い病気とのたたかいから解放されて本当によかったね。でもむちゃしてはだめだよ。今しばらく養生するんだ。少し注意がたりないように思うからよく気をつけるんだね。

◇水原孝子
運動会に、学芸会に級の中心となってきただけにみんなから注意されてきた。このため友達といざこざを起したこともあったわけだ。あなたも十分反省しなくてはいけないね。友だちの範囲がせますぎる。もっとみんなと仲よくしなくてはいけないよ。勉強のすも十分ではないので努力を忘れずに。

◇樋口凛子
少し気が小さかったね。あなた一人では何もできないというのでは、はずかしいことです。強くなれと大きな声でいいたい。それと共に、すききらいをなくして立派な体になって下さい。

◇藤井房子
級で一番小さかった藤井さん、よくここまで努力してきたと感心している。これからも健康に注意して一心に勉強しなさいね。今度はもう舌を出さないように、そして早くみんなとなれること。出来るはえ。

◇椿原英子
戦争のためとはいえ、お父さんの顔も知らず本当にかわいそうだった。けれどあなたには、そんなさびしそうな顔は少しも見られなかった。これからも明かるく育っていってね。だんだん自分ということを考えるようになったが、そんな心配は少しもいらない。好きなおどり、勉強を続けるんだ。

◇富永文雄
君も末っ子だったためで甘ったれのところもあったが、強いところもあった。野球の試合の時、小さい体でよくもあれだけ投げられたとびっくりしている。勉強もその気でやってもらいたい。時々どうでもいいんだという気にならないかね。野球の時には決してそんな気はおこさないだろう。その気持をいつまでも持続けるんだ。

◇高橋猛雄
猛雄ちゃんも末っ子の一人だったね。君はやさしいすなおな子だけれど、甘ったれみたいな点が見られる。しっかりしなくてはいけないね。洋ちゃんとは一生仲よくしていくんだよ。

◇三上章子
あなたも幾分甘ったれだったが、最近大人になってきた。積極性があってよくやるが少し気にしすぎたね。つまらぬことは気にしない方がいいよ。余り丈夫でない方だから、くれぐれも体に気をつけて勉強下さい。

◇大門康子
六年になってから、思いがけない病気にかかったが、もう丈夫になれたね。これからも体まないように健康には十分気をつけましょうね。親切だったのでみんなから好かれていた。これからもこのことを忘れずに。

◇清澤幸郎
時間中よく立って困ったが、最近はそんなことがなくなって来た。それだけ成長したんだ。人なつっこい性質で、よく先生のところへ寄って来た清澤君。交通当番の時などまじめに勤めてくれたが、宿題などはよく忘れて来た。これからはしっかり勉強するんだよ。

◇野口杉男
やさしい性質なのでみんなから好かれていたが、少し甘ったれのようなところがあったね。すききらいがあるのかしれないが並人君に負けぬ体格は持ちたいものだね。

◇市谷洋子
一年間しかおつき合いしなかったので、よくわからないが、しっかりしていると思う。

いつの間に、はにかむようになったんだろうね。二学期かな。何か気にかかることがあるのかね。もっとはつらつとしなさいね。富津に行った時、赤いカンナの花咲けばの歌を歌ったね。もう一度あのような気持になって下さい。だんだん人間が小さくなっていくような気がして、心配でならない。

◇池田義子

五年生の時には、よくくにいじめられたとかで、泣き事が多かったが、六年になってからは明かるいよい子になってきた。先生も本当にうれしい。けれど少し忘れ物が多かったね。これからは、よく考えてそんなことのないようにしましょう。勉強にも精出して希望が達せられることをねがっています。

◇笹倉　稔

よくふざけたね。けれどとてもすなおだった。ガラスをわって自分でいれたこともあったね。先生が言ってしまってわるいことをしたと後悔した。けれど友が小さくて怒り易いのか、よくけんかをしたね。鼻血を出したり、ときどにこぶをこしらえたり。本当にあぶなかったね。中学校に行ったら勉強の方に力を入れなさいね。

◇野口並人

最初は杉男君とよくまちがえてしまったよ。でも性質がかなりちがっているこに気がついた。君の方が幾分活潑だね。丁度番のようにみんなの中にとびこんでいくのは君の方だ。気象観測にしてもそうだ。けれどそれだけ君の方が物事にせんさいな点があるように思う。眼はもうなんともないかね。体に十分気をつけてね

◇高橋久美子

地区の選手として偉大な力を発揮したね。そんな活潑な点もあるけれど、物事にこだわりすぎて、つまらぬことに気をつかうのはよくないね。もっともっとほがらかにならなくてはいけないと思う。それから体があまり丈夫でないが、好ききらいをするからではないのかね。体が健全でないと精神も強くなれない。心身共に丈夫になってね。

◇武内洋子

女の子としてはめずらしい程、物事にこだわらなかったね。とてもいいことだと思う。児童部の仕事に長いこと働いてくれてありがとう。中学に行ったら一番下なんだから勉強に精出してね。

◇後藤正雄

君も運動方面によく活潑したね。これからは勉強の方面にも力を入れるんだ。きらいだと思っているといつまでたってものびないよ。それから、自分でいい悪いをよく考えてみるんだ。そして悪いと思ったら決してやらないんだ。このことが一番欠けていると思う。

◇落合高介

君も病気でだいぶ苦しんだね。でももう大丈夫だ。病気に対して注意するのはいいが、余り神経質になってはいけないよ。君のいい点は物事にこだわらないことだ。喜びも悲しみしなければ、怒りもしない。よく修養ができたね。でものんびりしすぎてはいけないよ。にわとりが大分君のおせわになったね。

いよいよお別れだね。二年間一緒に勉強してきたけれど、何も十分にできずにしまい君達にすまなく思っている。
ここに書いたのは、先生の感じたことをそのまま書いたので、少しいいすぎた人があったかも知れない。最後の願いだと思って赦してもらいたい。そしてこの中に、何か得るものがあったら幸である。

あとがき

五年生の時に、丘の子第一号を発行してここに四さつ。二年間に四さつはあまり多いとばいえないかも知れないが、先生としては手一ぱいであった。四号は卒業文集としたので、早くから原稿の用意をしたのであるが、費用の点や何かで三回も計画を変えてしまった。あれもものせよう、これもものせたいと思ってみんなにいろいろ整理してもらったが、紙面の都合でこれだけになってしまった。ひまがあったら、みんなといっしょに原紙を切ろうと思ったが、時間がないので印刷屋さんにお願いすることにした。

今度は、卒業なのでお母さん方にもお願いしたので、よくよんでもらいたい。最後にお忙しい中をみんなのために一文をお寄せ下さった校長先生、藤森先生、神山先生に厚く御礼申上げます。

昭和三十一年三月十一日　　大島　記す

学級文集

丘の子

4号（卒業記念号）

杉並区立西田小学校六年二組